



取扱説明書

■ブースターコンプレッサ

タンクマウント形

TLBS55C30-S2

TLBS75C30-S2

このたびは、アネスト岩田 ブースターコンプレッサをお買いあげいただきましてありがとうございました。

- ご使用前に この『取扱説明書』を必ずお読みください。
- お読みになった後は、本書を手近な所に保管し活用ください。

※下表の空欄に必要事項をご記入ください。

修理・サービスの時に必要になり、お客様の役に立ちます。

形式 MODEL	
製造番号 SERIAL No.	
購入先	
購入年月	年 月 日
使用開始日	年 月 日

残留リスク

■ 機械ユーザによる保護方策が必要な残留リスクマップ (略称: 残留リスクマップ)

製品名: 「TLBS55C30-S2, TLBS75C30-S2」

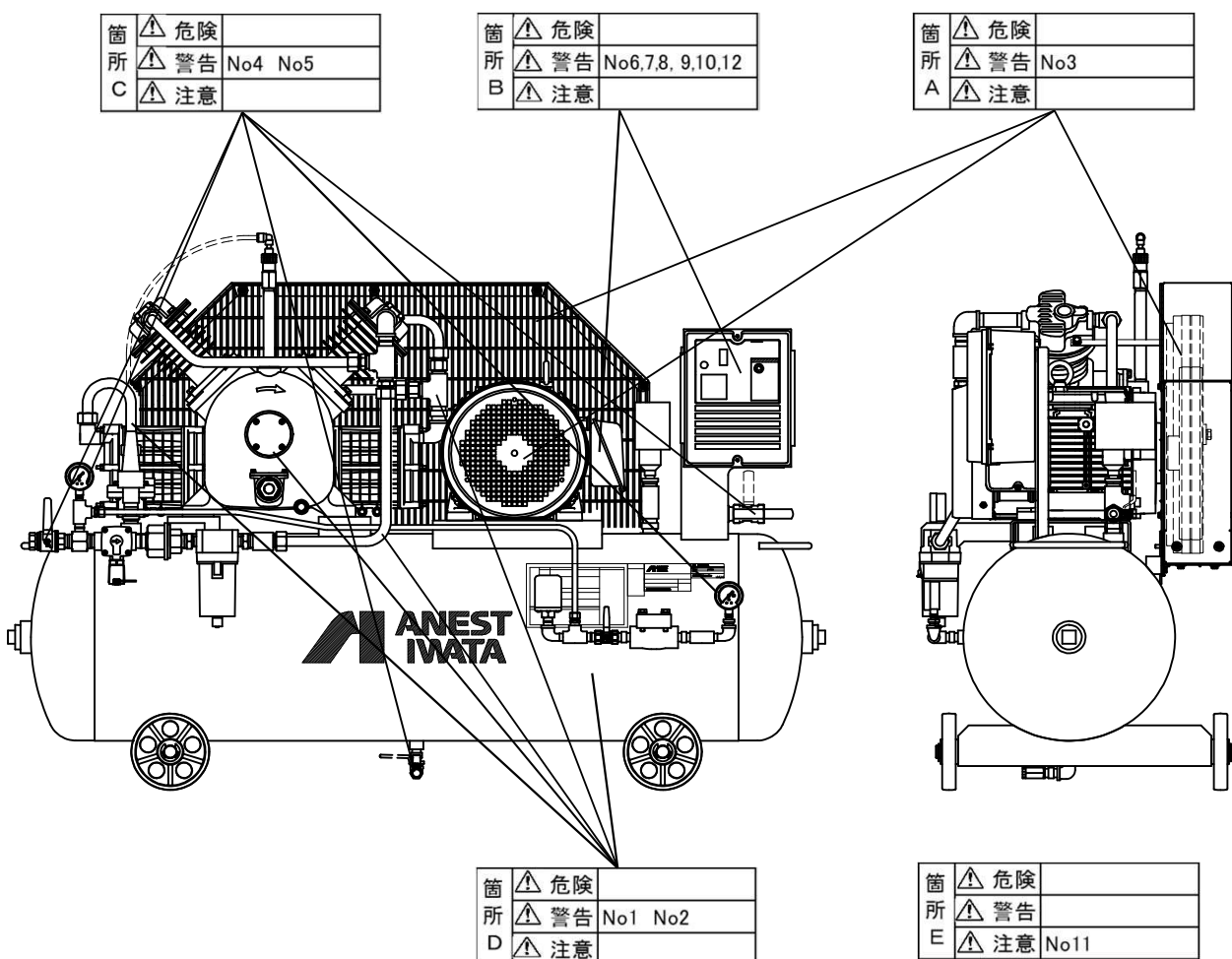
※必ず取扱説明書をよく読み、理解してから本製品を使用すること。
本資料は取扱説明書の参考資料であり、本資料の内容を理解しただけで本製品を使用してはならない。

残留リスクは、下記の定義に従って分類し記載している。

- ・ ⚠ 危険: 保護方策を実施しなかった場合に、人が死亡または重傷を負う可能性が高い
- ・ ⚠ 警告: 保護方策を実施しなかった場合に、人が死亡または重傷を負う可能性がある
- ・ ⚠ 注意: 保護方策を実施しなかった場合に、人が軽傷を負う可能性がある内容

図中に示されている箇所記号及び番号は、本製品の「残留リスク一覧」に記載されているものと一致している。各々の残留リスクの詳細については、「残留リスク一覧」を参照のこと

「TLBS55C30-S2 TLBS75C30-S2」



残留リスク

■機械ユーザによる保護方策が必要な残留リスクマップ (略称: 残留一覧)

製品名:「TLBS55C30-S2, TLBS75C30-S2」

※必ず取扱説明書をよく読み、理解してから本製品を使用すること。

本資料は取扱説明書の参考資料であり、本資料の内容を理解しただけで本製品を使用してはならない。

残留リスクは、下記の定義に従って分類し記載している。

- ・⚠ 危険: 保護方策を実施しなかった場合に、人が死亡または重傷を負う可能性が高い内容
- ・⚠ 警告: 保護方策を実施しなかった場合に、人が死亡または重傷を負う可能性がある内容
- ・⚠ 注意: 保護方策を実施しなかった場合に、人が軽傷を負う可能性がある内容

図中に示されている箇所の記号及び番号は、本製品の「残留リスク一覧」に記載されているものと一致している。各々の残留リスクの詳細については、「残留リスク一覧」を参照のこと

No	運用段階	作業	作業に必要な資格・教育	機械上の箇所	危害の程度	危害の内容	機械ユーザが実施する保護方法	取扱説明書の頁
1	準備 運転 保守	設置する時 運転する時 メンテナンスする時	電気工事士または専門業者	B	警告	感電する。	<ul style="list-style-type: none"> ・電磁開閉器のカバーを外して運転しない。 ・電動機、圧力開閉器の保護カバーを外して運転しない。 ・電気配線工事は有資格者に依頼する。 ・アースを必ずとる。 ・規定サイズの漏電遮断器を使用する。 ・電気配線を行う場合や電気品に触れる場合は、停止スイッチを押してコンプレッサを停止させ、必ず元電源を切る。 	P5 P16 P19
2	運転 保守	運転する時 メンテナンスする時	電気工事士または専門業者	B	警告	発火により火傷をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・規定以下の電源用ケーブルを使用しない。 ・電気配線工事は有資格者に依頼する。 ・電気配線を行う場合や電気品に触れる場合は、停止スイッチを押してコンプレッサを停止させ、必ず元電源を切る。 	P5 P16 P19
3	運転 保守	運転する時 メンテナンスする時	----	A	警告	ベルト、プーリ、ファンに手や工具等を近づけると巻き込まれ怪我をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ベルトガードを取り外して運転しない。 ・ベルトガードの中に指や棒などを差し込まない。 ・作業に入る前には停止スイッチを押してコンプレッサを停止させ、必ず元電源を切る。 	P6 P19
4	運転 保守	運転する時 メンテナンスする時	----	C	警告	圧縮空気が噴出したたり、物が飛散することで怪我をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・運転中に付属の機器を取り外さない。 ・安全弁のチェック時に安全弁に顔を近づけない。 ・保安機器の設定を無断で変更しない。 ・作業前には必ず圧縮機の空気をすべて抜き、圧力がないことを確認する。 ・作業に入る前には停止スイッチを押してコンプレッサを停止させ、必ず元電源を切る。 	P6 P19 P34
5	運転	運転する時	----	C	警告	圧縮空気を吸引して障害を負う。また、圧縮機周辺の大気に有害ガス等が含まれていると同じものが圧縮空気にも含まれるため、吸引すると人体に重大な影響を与える。	<ul style="list-style-type: none"> ・圧縮空気を直接吸引する呼吸器系の機器には使用しない。 ・周囲に有毒ガス等がない場所に設置する。 ・窒素ガスを圧縮する場合、通期の良い場所に設置する。 	P5 P6 P12 P29
6	運転	運転する時	----	E	警告	圧縮機が故障すると人命にかかわる設備が止まり人体に重大な損傷をあたえる。	<ul style="list-style-type: none"> ・圧縮空気を人命にかかわる設備に使用しない。 ・重要設備等には予備機やそれに替わる装置を用意する。 	P6
7	準備 運転 保守	設置する時 運転する時 メンテナンスする時	----	E	警告	爆発・発火し怪我・火傷をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・爆発性・引火性ガス、有機溶剤など、可燃物の付近に設置しない。 	P5 P12
8	運転 保守	運転する時 メンテナンスする時	----	E	警告	感電する。 発火により火傷する。	<ul style="list-style-type: none"> ・屋外に設置しない。 ・雨・蒸気が当たる場所、湿度が高い場所、結露しやすい場所に設置しない。 ・ごみやほこりが堆積する場所に設置しない。 	P6 P7 P12
9	準備 運転 保守	設置する時 運転する時 メンテナンスする時	----	E	警告	爆発・発火し怪我・火傷をする	<ul style="list-style-type: none"> ・空気以外を圧縮しない。 ・圧力の設定を指定以外に調節しない。 	P5
10	準備	設置する時	----	E	警告	コンプレッサが落下してはさまれたり下敷きになり怪我をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・質量に十分耐えられる(余裕のある)吊り具を使用する。 ・重心位置を考慮しバランスよく吊り上げる。 	P12
11	運転	運転する時	----	D	注意	高温部に触れて火傷をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・運転中や運転直後の電動機に手を触れない。 ・運転中や運転直後のコンプレッサ各部に手を触れない。 	P7 P29

はじめに

■ 重要なお知らせ

この取扱説明書には、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために守っていただきたい事項を示しています。

その表示と記号の意味は次のようになっています。







警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容を、又は物的損害の発生が想定される内容を示しています。

● 絵表示例

	この記号は「注意すべきこと」を意味しています。 この記号の中や近くに、具体的な注意内容を表示します。		(上の例は感電注意)
	この記号は「してはいけないこと」を意味しています。 この記号の中や近くに、具体的な禁止内容を表示します。		(上の例は接触禁止)
	この記号は「しなければならないこと」を意味しています。 この記号の中に、具体的な指示内容を表示します。		(上の例は必ずアース線を接続せよ)

● 補足表示



お願い

この記号は、機械の性能や機能を十分に発揮してお使いいただくために守っていただきたい内容を示しています。



ワンポイント

この記号は、知っていると役に立つ知識、アドバイスなどを示しています。

※警告、注意の表示を無視して使用した場合の損害および損傷については、当社は一切責任を負えませんのでご了承ください。

● 法律による届出(騒音規制法および振動規制法)

※7.5kW以上のブースターコンプレッサを設置の場合は、届出の対象となります。詳細はP31をご覧ください。

● この商品の保証について

※巻末に保証と修理サービスについての説明があります。内容をよくお読みください。

目次

残留リスク		日常運転の管理	
■残留リスクマップ	1	■運転開始	20
■残留リスク一覧表	2	■運転中	21
はじめに		■運転終了	22～23
■重要なお知らせ	3	保守点検	
目次	4	■保守・点検一覧表	24～25
安全上のご注意		■機能点検	26
■警告	5～6	■分解上の注意	26
■注意	7	■点検・清掃上の注意	27
■警告表示貼り付け位置	8	■組立上の注意	28
現品確認		■部品の購入について	28
■形式の見方	9	故障かな？と思ったら	29
■付属品一覧	9	空気タンク他点検記録	30
各部の名称		法律による届出	32
■各部の名称	10	組立図/部品表	
■外形寸法	10	■圧縮機本体	32
設置場所		■TLBS55C30-S2	33
■警告	11	■TLBS75C30-S2	33
■お願い	12	電気回路図	34
配管		保証とサービス	
■吸込み側配管	13	■保証について	
■吐出し側配管	13～14	■修理サービスについて	
配線	15	■お問い合わせについて	
試運転			
■オイルの補給	16		
■運転準備	17		
■回転方向の確認	17		
■制御圧力の設定	18		
■圧縮機の試運転開始	18		
■制御圧力の確認	18		
■タンクドレンの排出確認	19		

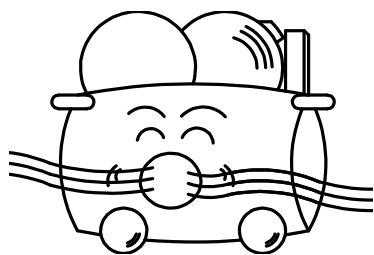
安全上のご注意

ここに示した内容は、安全に関する重大な内容ですので、ご使用前によくお読みのうえ正しくお使いください。

警告

窒素ガスの圧縮に使用する場合、作業中に室内が酸欠状態にならないように、通気の良い室内に設置してください。

※酸素濃度の低い空気を吸引すると死亡する危険があります。

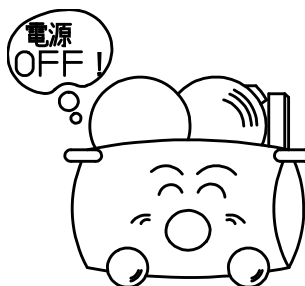


通気の良い室内に設置する。

電装箱を開ける場合や配線作業・点検のときは、必ず元電源を切ってください。

(電装箱の先の電源を遮断する)

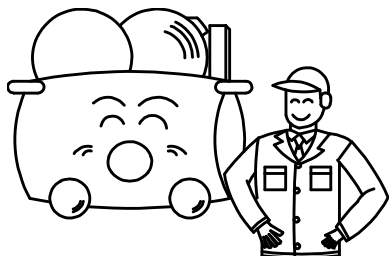
※感電の危険があります。



電源の遮断

電気配線工事は電気工事士又は電気工事店に依頼してください。

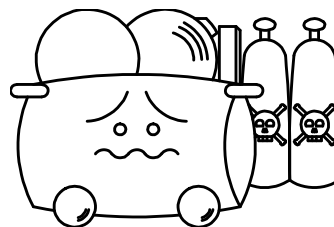
※感電や火災の原因となります。



有資格者に依頼する

爆発性ガス、引火性ガス(アセチレン・プロパンガスなど)・可燃物のない場所に設置してください。

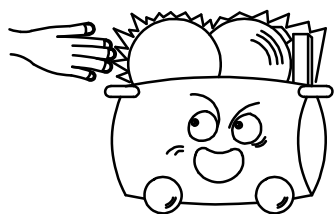
※爆発・発火の原因となります。



安全な場所に設置する。

アース工事を必ず行ってください。

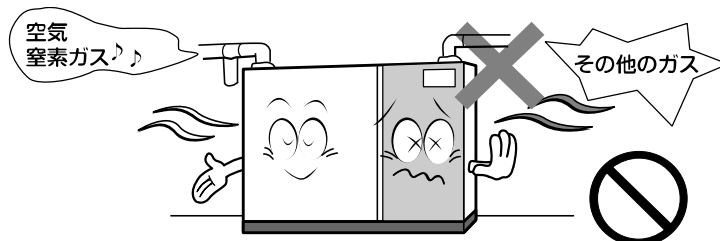
※感電や火災の原因となります。



アースを接続する

空気・窒素以外の気体の圧縮には絶対使用しないでください。

※爆発、火災、破損などの原因となります。

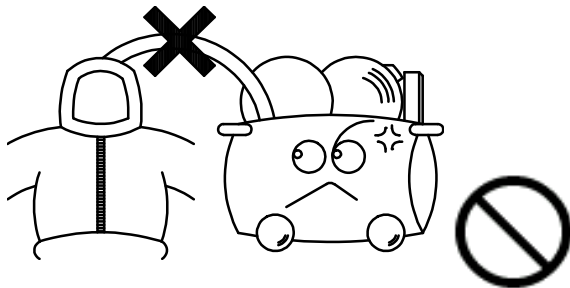


空気・窒素以外のガスの圧縮禁止

安全上のご注意

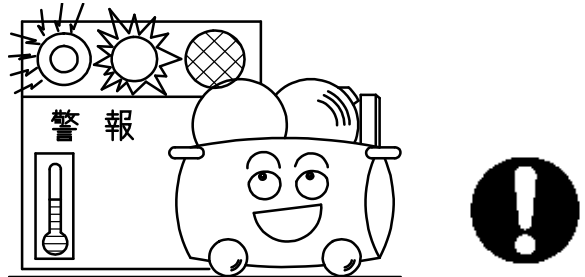
警告

圧縮空気を直接吸引する呼吸器系の機器や人命に関わる設備には使用しないでください。
※人体に重大な損害を与える危険があります。



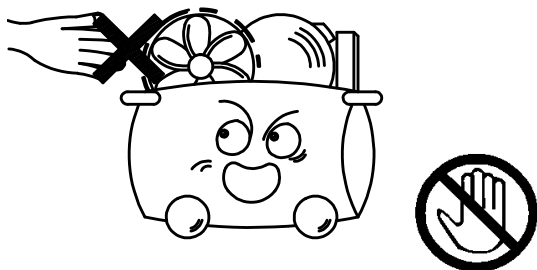
使用禁止

重要製造設備等に使用される場合は、圧縮機の予期せぬ停止に備え、予備機やそれに替る装置を必ず用意してください。
※製造装置又は製造物に損害を与えるおそれがあります。



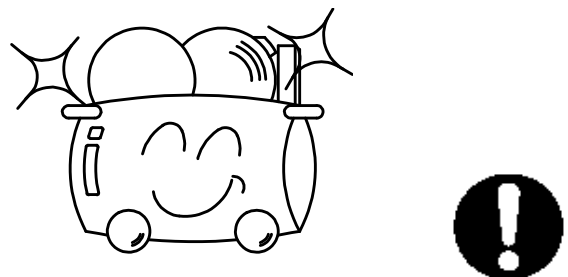
予備機を準備する

元電源が入った状態で回転部(プーリ・ベルト)に手を触れないでください。
※手が巻き込まれるおそれがあります。



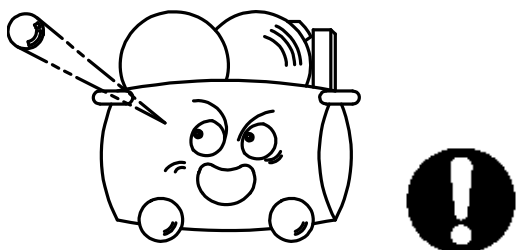
接触禁止

定期的に保守点検、整備を必ず行ってください。
(24～28ページ参照)
※発火・焼損や破損事故の原因になります。



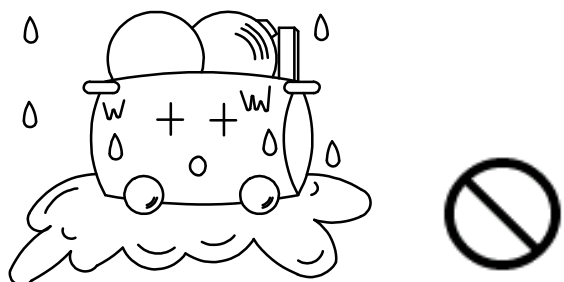
保守点検実施

点検・整備を行う場合には空気タンクの圧力を必ず放出し圧力の無いことを確認してから点検・整備をしてください。
※部品が圧力で飛び怪我をすることがあります。



圧力確認実施

屋外には設置しないでください。
※本製品は耐水構造になっていません。電気系統に雨水がかかると漏電や火災事故を起こすおそれがあります。

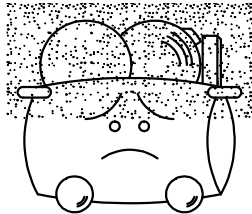


屋外設置禁止

安全上のご注意

警告

ゴミやほこりの少ない場所に設置してください。
※部品の摩耗・寿命低下や故障の原因となります。



塵埃のない
場所で使用する

人体に有害なガスがない場所に設置する。
※有害なガスがコンプレッサで圧縮され吐出された場合
人体に重大な障害が起こる可能性があります。



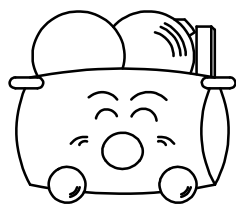
安全な場所に
設置する。

注意

周囲温度が2~40℃(運転中)の場所で使用
してください。

※2℃以下ではドレン凍結により故障の原因
になります。40℃以上では、寿命低下や破
損事故の原因となります。

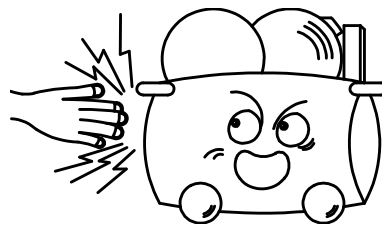
2~40℃



規定温度で使用する

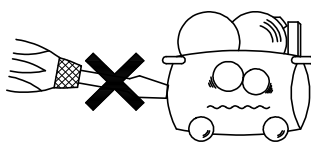
運転中や運転直後は圧縮機各部に直接手を触れ
ないでください。

※火傷する恐れがあります。



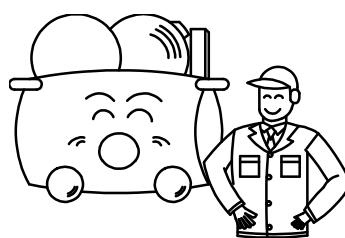
接触を禁止する

製品の改造はしないでください。
※破損事故や寿命低下の原因となります。



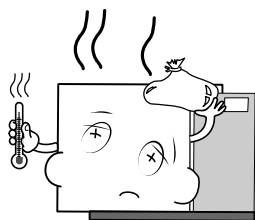
改造を禁止する

修理は専門の業者に依頼してください。
※修理の不備があると破損事故や寿命低下の
原因になります。



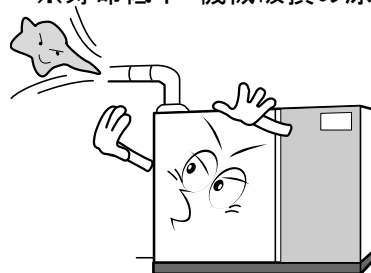
修理
依頼する

吸込み気体の圧力は0.5~0.88MPa
温度は50℃以下としてください。
※寿命低下の原因となります。



規定の吸込
み気体条件

吸込み気体に液状ドレンが混入させないでください。
※寿命低下・機械破損の原因となります。

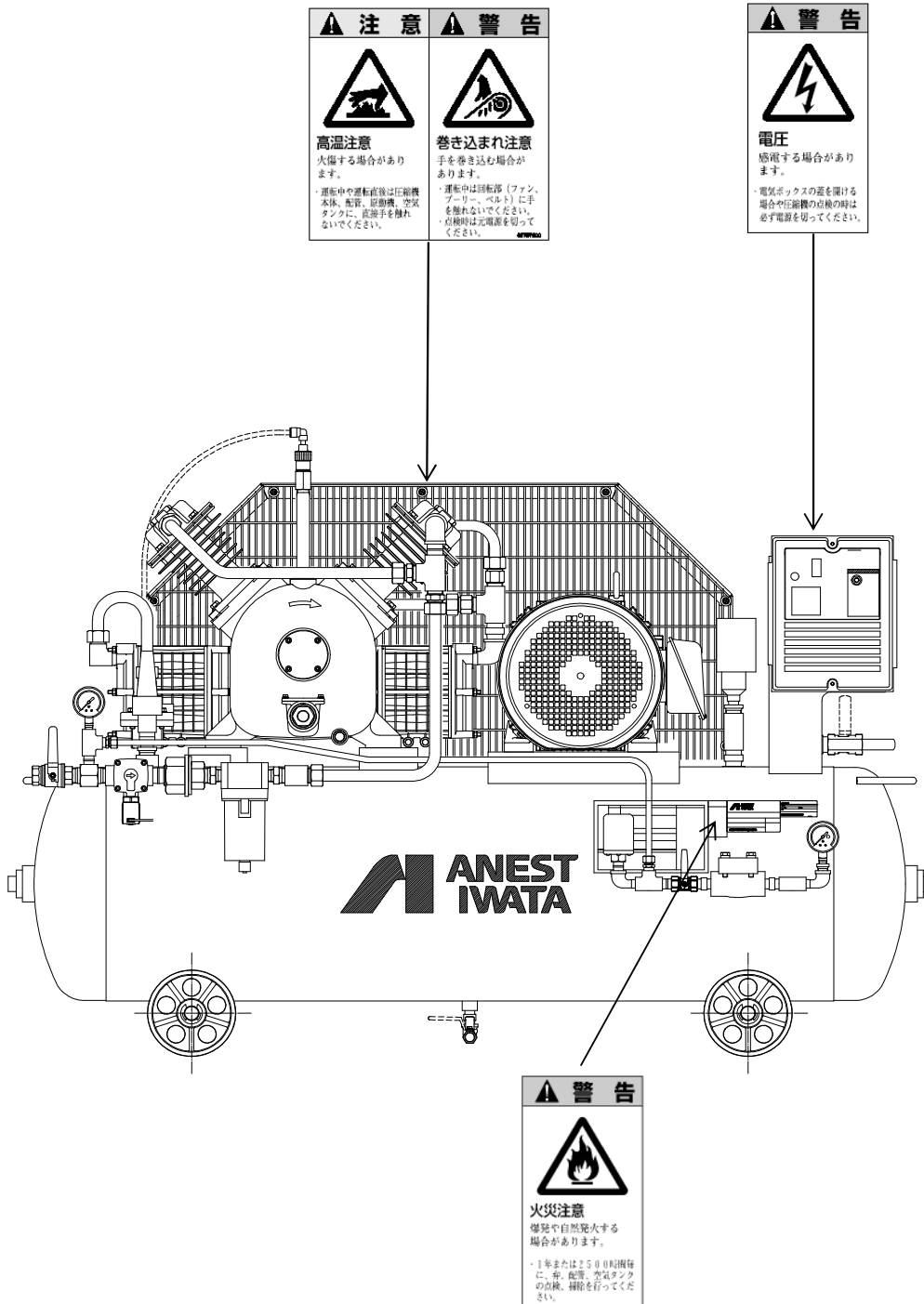


吸込み気体
のドレン

安全上のご注意

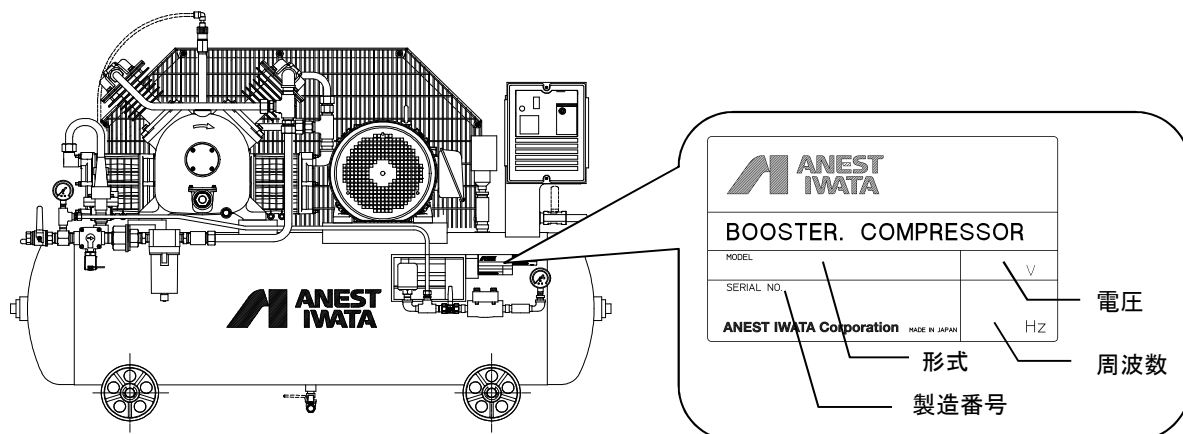
警告表示貼り付け位置

警告表示は常に汚れや破損のないように保ち、もし破損・紛失した場合は新しいものに貼り直してください。表示銘板はご購入頂いた販売店又は最寄りのアネスト岩田コンプレッサ(株)にお申し付けください。代表形式を図示しておりますので、形式により外観形状と貼り付け位置の一部が異なります。



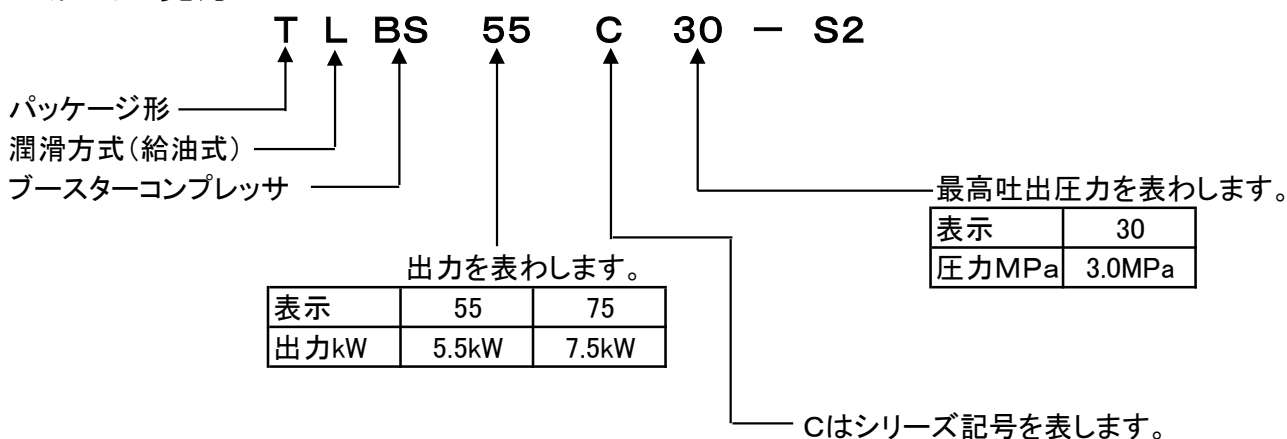
現品確認

形式・周波数が注文どおりか、現品を確認してください。



輸送中に変形や破損した箇所がないか確認してください。

■形式の見方



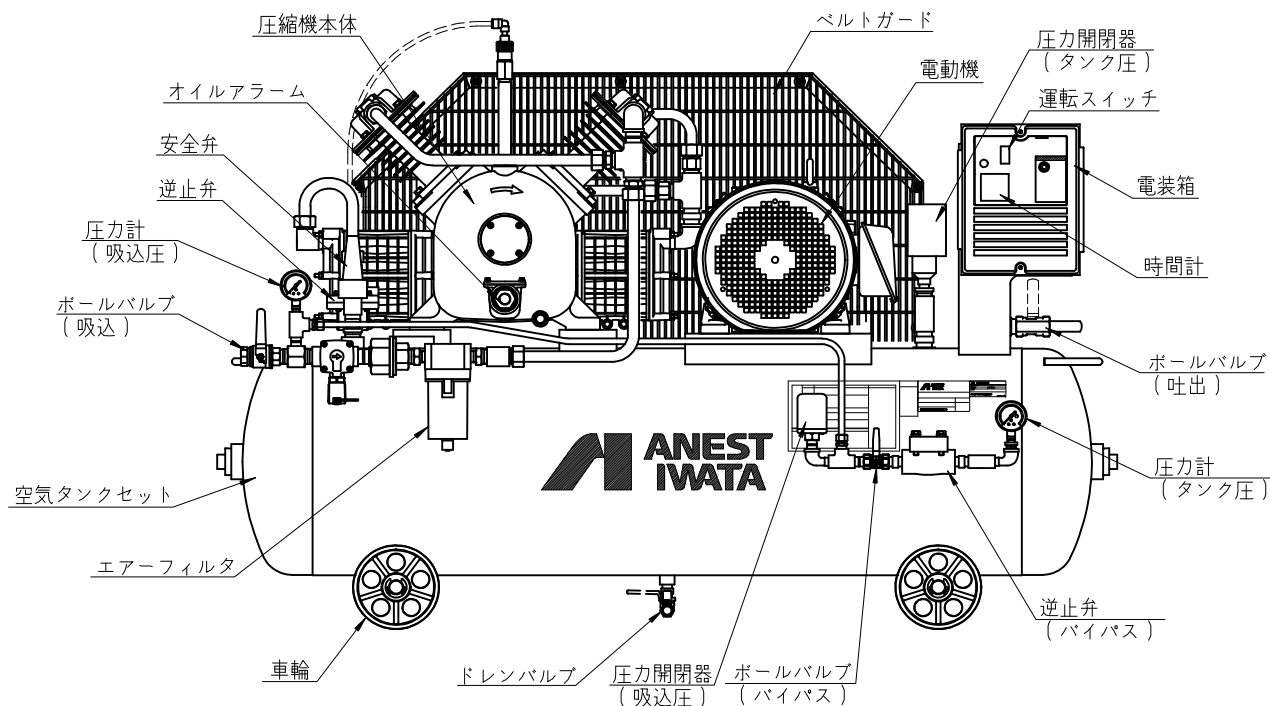
■付属品一覧

付属品が全てあるか、確認してください。

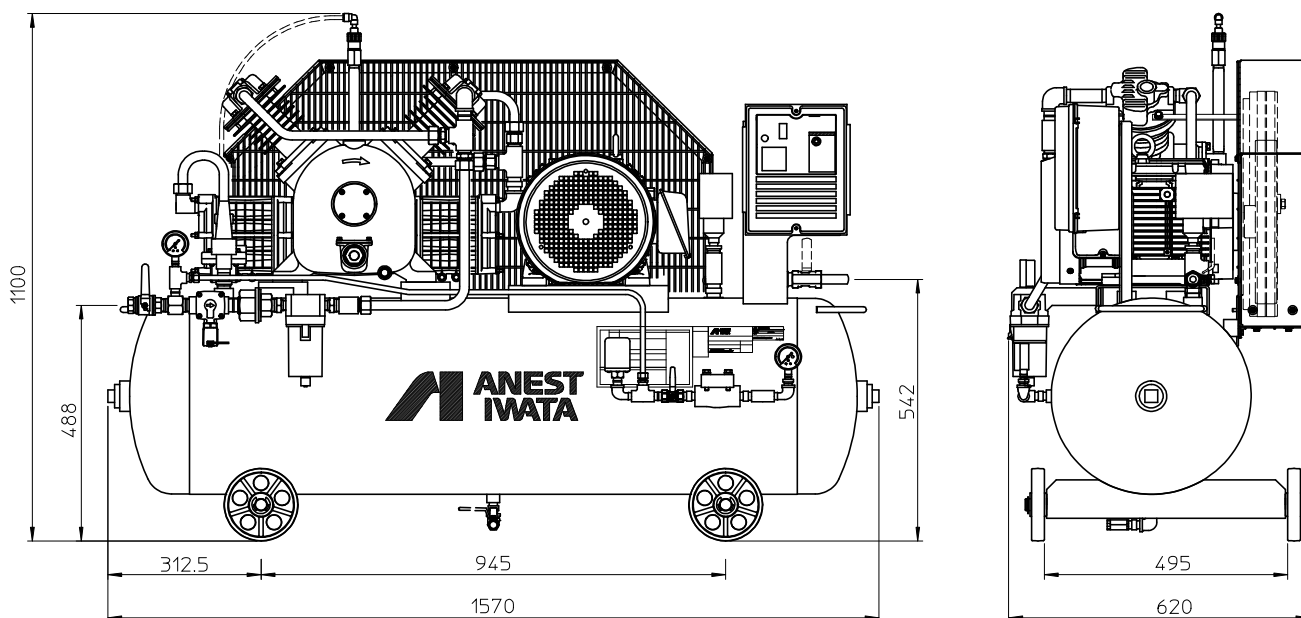
- 取扱説明書 1部
- 電動機取扱説明書 1部
- 純正専用オイル 1缶
- ジョーゴ 1個
- フィルタセット 1セット
- 空気タンク(60L) 1台
- エアホース 1本
- フレキシブルチューブ 1本

各部の名称

■各部の名称



■製品外形寸法



設置場所

設置には下記の事項を必ずお守りください。



窒素ガスの圧縮に使用する場合、作業中に室内が酸欠状態にならないように、通気の良い室内に設置してください。

- 室内の通気が悪い場合、タンクのガスを大量に放出すると、室内の空気が酸欠状態になり、作業者が死亡する危険があります。



通気の良い室内に
設置する。

近くに有害(爆発性・引火性・腐食性)なガスや可燃物のない場所に設置してください。

- 爆発性ガス、引火性ガス(アセチレン・プロパンガスなど)や可燃物のある不適切な場所に設置した場合爆発・発火事故の原因になります。

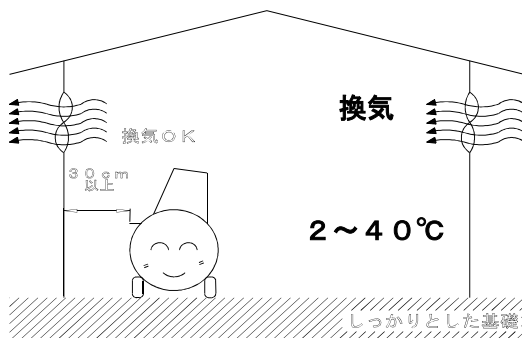
- 腐蝕性ガス(アンモニア・酸・塩分・亜硫酸ガスなど)の雰囲気での使用は、圧縮機の寿命低下の原因となりますので、換気に十分ご注意ください。



安全な場所に
設置する

水平で基礎がしっかりしている場所を選び、がたつきのないよう床面に設置してください。

- 3°以上の傾斜面に置くとオイルレベルスイッチが正常に働かず焼きつき事故や破損事故の原因となります。
- 設置が不安定で車輪が浮いていると、異常振動や異音、圧縮機の破損の原因となります。車輪の下にゴムや緩衝布を敷くと安定し、防振効果にもなります。
※車輪が固定されると、運転中の振動が逃げないため、圧縮機が破損する原因となります。



設置を
安定化する

室内で湿気の少ない場所に設置してください。

- 雨水がかかったり、湿気の多い場所(湿度85%以上)では、漏電や火災事故を起こす危険があります。



水気禁止

設置の際に圧縮機を吊り上げる場合は、圧縮機の質量に十分に耐えられるものをご使用ください。また重心位置を考慮してバランスよく吊り上げてください。

- 質量に耐えられない吊り具を使用したり、バランスを考慮せずに作業すると落下事故の原因にな



安全な作業をする

設置場所

お願い

保守・点検が容易にできる場所に設置してください。

- 圧縮機の周囲に作業員が入って、十分に点検できるスペースを確保してください。



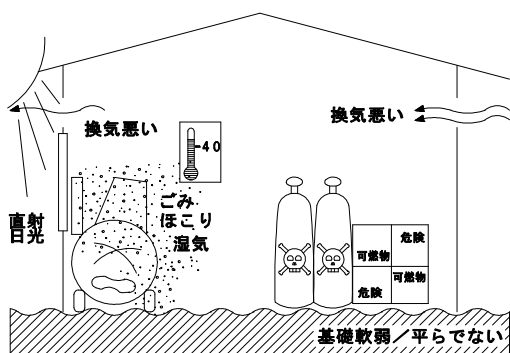
スペースを確保する

ごみやほこりの少ない場所を選んでください。

- 鉄粉・石粉・研磨粉・木屑などがパッケージ内に吸い込まれると冷却性能低下や発熱部の蓄熱により内部の異常摩耗を生じさせるなど寿命低下や機械の破損・火災の原因となります。
- ごみの多い場所でどうしても使用する場合には、本体やその他部品のメンテナンスを頻繁に行ってください。



塵埃の少ない場所に設置する。



注意

規定の温度で運転できる場所を選んでください。

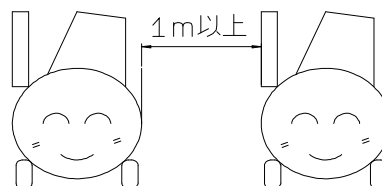
- 2°C以下の使用は、起動不良やドレンの凍結により圧縮機各部に作動不良が発生する原因となります。
- 40°C以上の使用は、オイル消費量の増加や有害なカーボン発生の原因となり寿命低下や破損事故を起こすことがあります。



規定温度で使用する

2~3台を並列に並べて運転する場合は、隙間を1m以上あけて設置してください。

- 圧縮機どうしが温度影響を受け、圧縮機の寿命低下の原因となります。



スペースを確保する

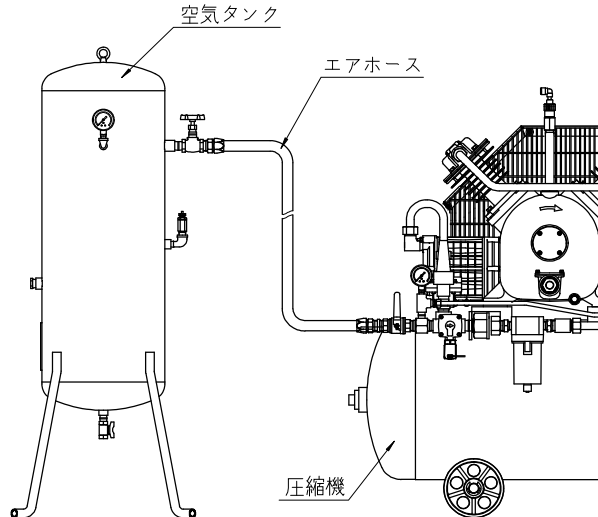


密着設置禁止

配管

■吸込み側配管

吸込み側に装置付属の空気タンクを設置してください。
空気タンクと圧縮機の接続は付属のエアホースを使用してください。



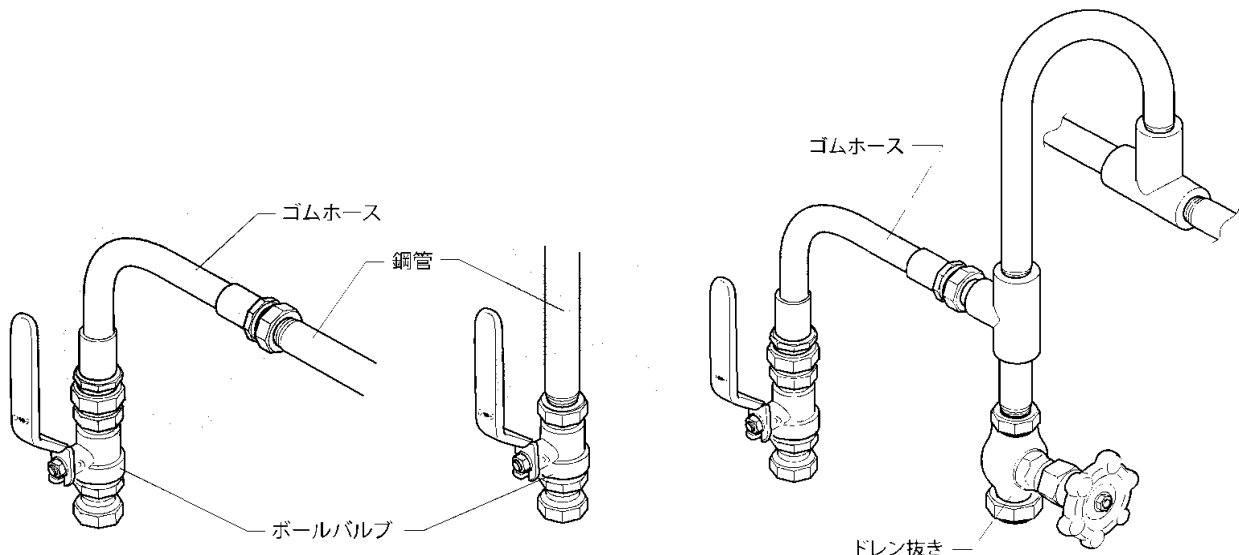
- 吸込み側の気体圧力が0.88MPa以上になる場合には空気タンクの手前に減圧弁を設置してください。減圧弁は、流量が3000L/分以上、接続口径Rc3/4、1次側最高圧1MPa以上、2次側調整可能範囲0.05～1.0MPaの製品を付けてください。(ノンリリーフタイプを推奨します。)

■吐出し側配管

付属のフィルタセットを設置し、付属のフレキシブルチューブで圧縮機と接続してください。

- 使用条件によって別置の空気タンクが必要になる場合があります。
- 鋼管に直接接続すると、振動により配管に亀裂が生じることがあります。ゴムホースはオゾンによる影響が少ない素材をご選定ください。(常用耐圧3.0MPa以上 耐熱90℃以上)
- ホースの両端に使うネジ継手はホースメーカー指定のものをご使用ください。

立上り配管がある場合は、必ず下部にドレン溜りとドレン抜きを設けてください。



配管

圧縮機を2台以上同一配管上で運転する場合、下記のような運転方法にすることもできます。

- 全ての圧縮機を均等に運転する。
- 主運転機と予備運転機に分けた運転をする。
上記の運転方法につきましては、お買い求めの販売店またはアネスト岩田コンプレッサ(株)の支店・営業所にご連絡ください。
- 本機はオイル潤滑機ですので、圧縮されたガスに油分を含みます。油分が問題となる場合は吐出し側の配管に高圧用のプレフィルタとオイルミストフィルタを取り付けてください。取り付ける際は、できるだけ配管を長く取り、配管の末端にフィルタを取り付けてください。フィルタを通過するガス温度が高温になると、ろ過能力が低下し、ガス内の残留オイル量が増える恐れがあります。

配線

警告

- 配線作業は、必ず元電源を切ってください。
※感電の危険があります。
電気配線工事は、電気工事士又は、電気工事店に依頼してください。
電源は必ず漏電遮断器を通して、1台ごと単独で接続してください。
使用する配線の太さも下表の太さ以上の線をご使用ください。
※感電や火災の原因となります。

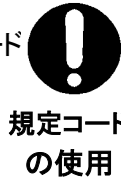


電源の遮断



有資格者に
依頼する

- 配線には一定の長さ、規定の太さのコードを使用してください。電圧が低下し電動機が起動しないことがあります。
※火災や焼損の原因となります。



規定コード
の使用

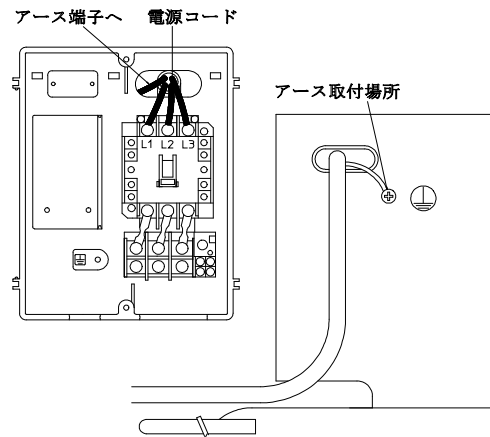
配線容量は次のとおりです。

主電源

出力	電源	配線の 最小太さ	アース線の 最小太さ	漏電遮断器 の定格電流
5.5kW	200V3相	5.5mm ²	5.5mm ²	75A
7.5kW	200V3相	14mm ²	8.0mm ²	125A

- 右表の線の太さは、長さが20m以下を基準としたものです。漏電遮断器の定格電流は、内線規程3705節によります。

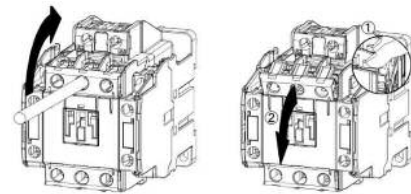
電源コードは、端子台の端子にゆるみや誤配線・外れがないようにしっかりと接続してください。
アースの接続もしっかりしてください。



- 接続が不十分ですと接続部が加熱したり、電動機の焼損事故の原因となります。
- 端子サイズ

出力 kW	5.5	7.5
電源コード端子	M4	M5
アースコード端子	M5	

- 電磁開閉器の端子カバーは図のように取外し、配線後に再度取付けてください。



※端子カバーの取外し方

警告

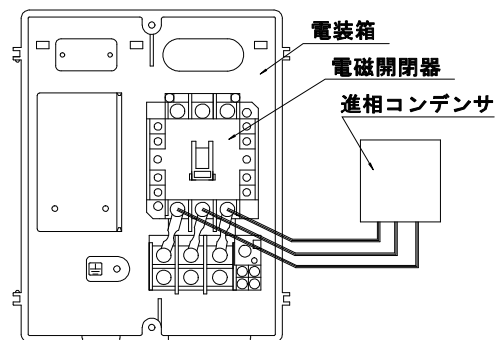
- 漏電事故防止の為、アースは必ず取り付けてください。
アース取付けネジは右上図の位置に用意してあります。
※感電や火災の原因となります。



アースの接続

進相コンデンサを使用する場合には、電磁開閉器の二次側(電動機側)でサーマルリレーに進相電流を流さないところに接続してください。また電磁開閉器は1ランク大きいものに変更してください。

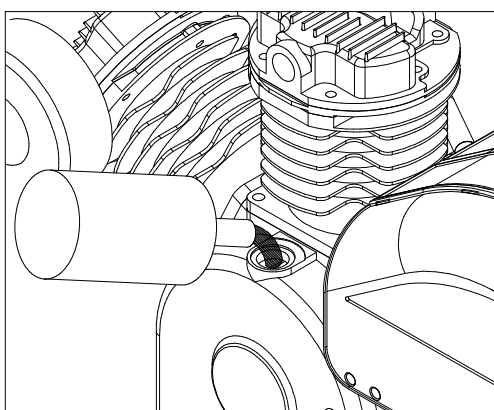
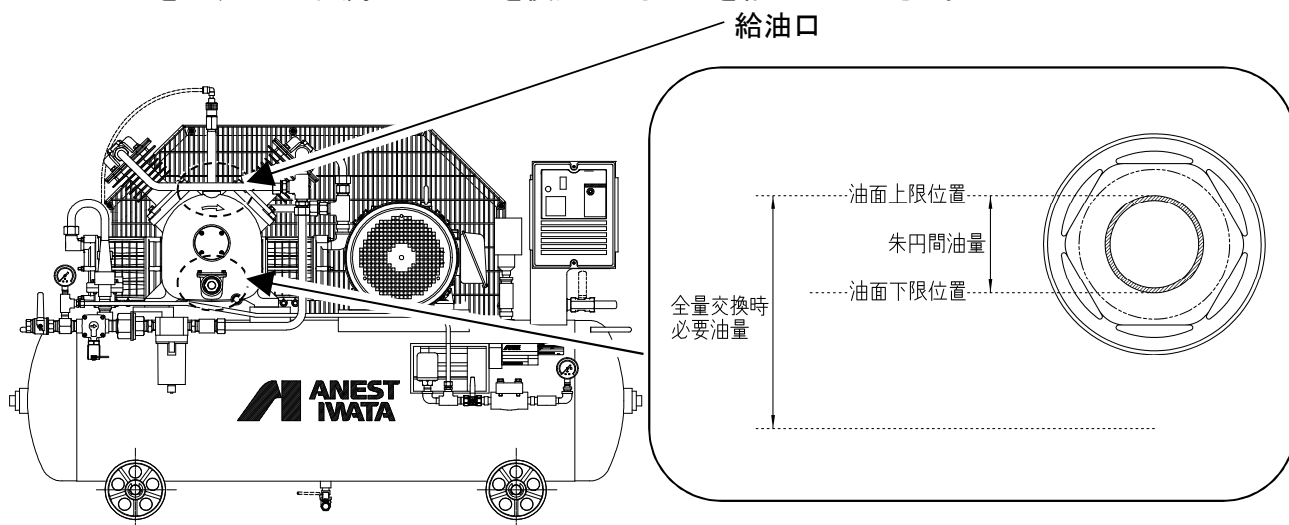
- 電源側に接続すると欠相の場合電磁開閉器のバツキなどを発生し、接点やコイルの焼損の原因となります。



試 運 転



■オイルの補給

潤滑油の量を油量計で確認し不足している場合は弊社純正専用オイルを補給して下さい。
キャップをはずしたら付属のジョーゴを使用してオイルを給油してください。



注油口は、手で回すことができます。
固い場合は、工具を使用してください。
潤滑油はこぼさないように注意願います。
こぼした場合には、布などできれいにふき取り、
ふき取った布などは、公害問題にならないように
処理してください。
給油後、キャップは手でしっかりと閉めてください。

出力(kW)	全量交換時の必要油量(L)	朱円間油量(L)
5.5	1.9	0.9
7.5		

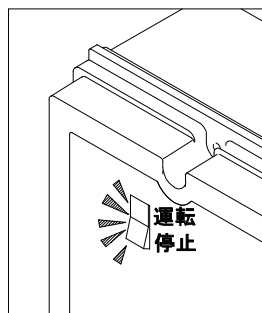
	<p>注意</p> <p>●オイルを補給するときは、油面上限位置を必ず守ってください。 ※油面上限位置を越えて給油するとオイル上がりの原因となります。</p>		<p>オイルの 入れすぎ 注意</p>
---	--	---	-----------------------------

試 運 転

■ 運転準備

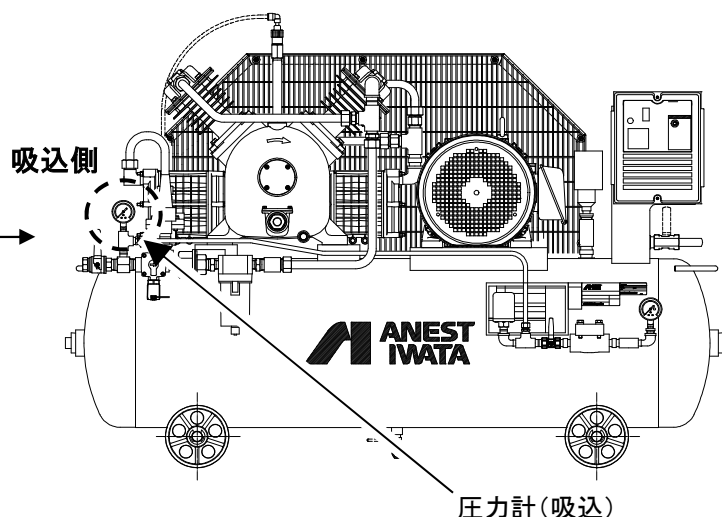
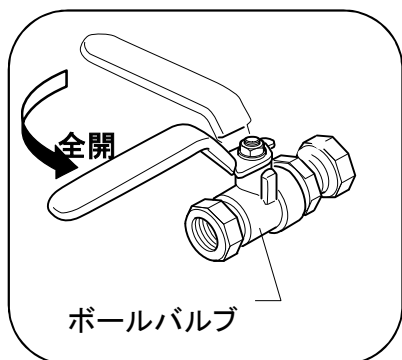
■ 元電源の投入

- 元電源を入れて運転スイッチが点灯することを確認してください。
- 吸込み側のボールバルブを全開にして接続ネジ部の漏れを確認してください。



■ 吸込み気体圧力の確認

- 吸込気体圧力が0.5MPa以上0.88MPa以下であることを確認してください。
- 吸込気体圧力が0.88MPaより高い場合は、減圧弁で調整してください。
- 吸込み気体圧力が、0.5MPaより低い場合は、供給装置の圧力を調整して0.5MPa以上を確保してください。本体吐出し温度が上がり、寿命低下の要因となります。(吸込圧力が0.4MPa以下では低圧警報が作動し運転できません)
- 吸込み気体圧力を装置側で確認する時はボールバルブ部の圧力計で確認ください。

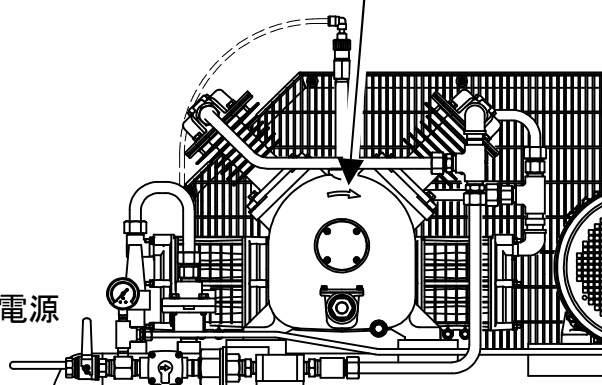


■ 回転方向の確認

運転スイッチ(ON)を押して数秒間運転させて回転方向を確認してください。

- 回転方向は図のとおりです。

回転方向
正面から見て時計回り



回転方向が反対の場合には端子台に接続した電源コード3本のうち 2本を入れ替えてください。

⚠ 警告

- 配線の入れ替え作業は、必ず元電源を切ってください。
- ※感電の危険があります。



電源の遮断

📖 お願い

- 正しい回転方向で運転してください。
- ※回転方向が反対の場合には、圧縮機の冷却が正常に行われず 過熱により圧縮機の寿命低下又は破損の原因となります。



回転方向の確認

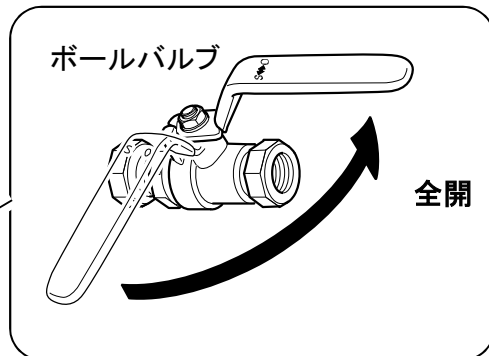
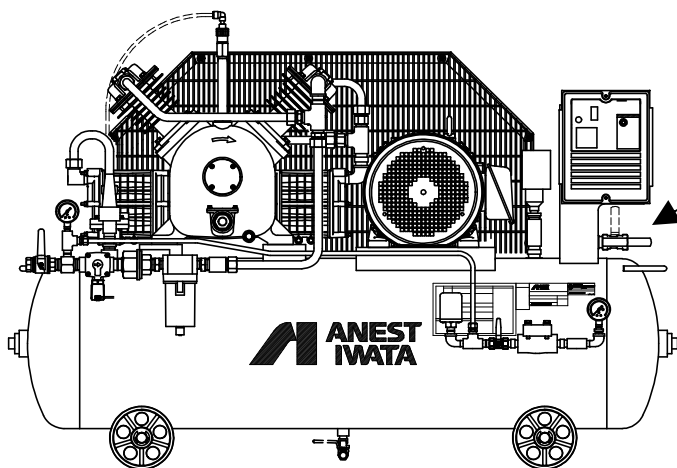
試 運 転

■ 制御圧力の設定

この製品は、制御圧力が上限圧3.0MPa 下限圧2.65MPaに設定されています。

■ 圧縮機の試運転開始

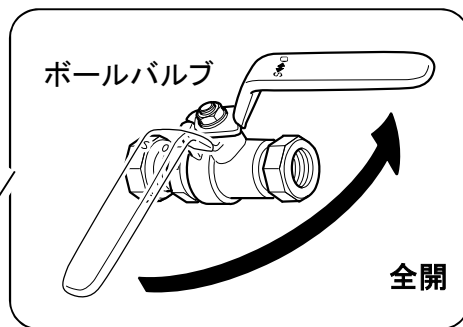
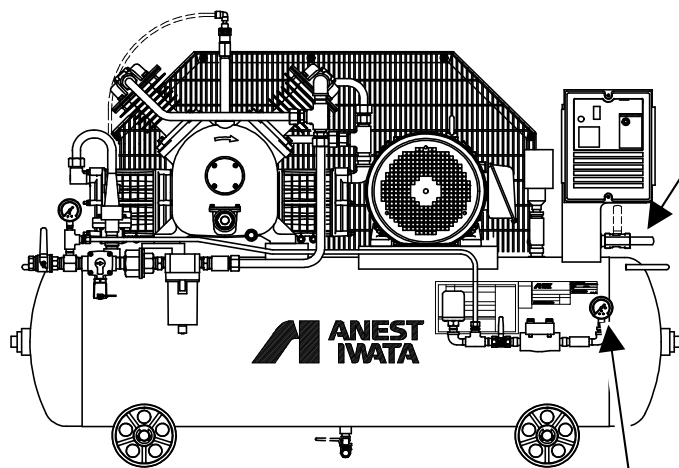
- 吐出のボールバルブは全開のままスタートしてください。
異常音や異常な振動がないか確認してください。



■ 制御圧力の確認

制御圧力を確認してください。

- ボールバルブを閉じると圧力計の値が上昇します。



圧力制御機器の設定圧力

設定圧力 MPa	最高圧力 MPa	3.00
制御圧力	作動圧力=上限圧力 (圧縮運転を止める)	3.00
	復帰圧力=下限圧 (圧縮運転を始める)	2.65
安全弁	吹き出し圧力	3.20

※制御圧力、安全弁の設定圧力は上記の通りです。

圧力計

作動圧力	ボールバルブを閉じたまま圧縮を行うと、作動圧力に達したとき圧縮運転を停止します。
復帰圧力	作動圧力に達したあとボールバルブを開いて、圧力を徐々に下げたとき復帰圧力で圧縮運転を再開します。

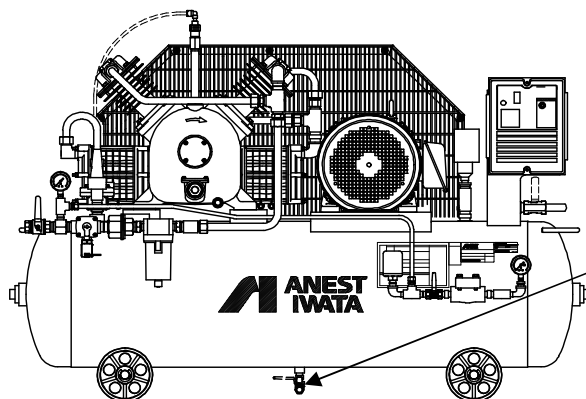
試 運 転

■タンクドレンの排出確認

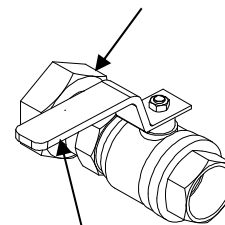
タンクドレンの排出確認をしてください。

- タンクに制御圧の中間以上の圧力が貯まった時
ドレンバルブ(ボールバルブ 3/8)のcockを開いてタンクのドレンが排出されるのを確認してください。

※納入初期の試運転時はドレンの溜まりが少ないため、空気のみ放出や空気混じりのドレンとなることがあります。
ドレンが飛散して周囲を汚さないように注意願います。



ドレンバルブ(ボールバルブ)



※ボールバルブを開けると排出されます。
バルブはゆっくりと開けて下さい。

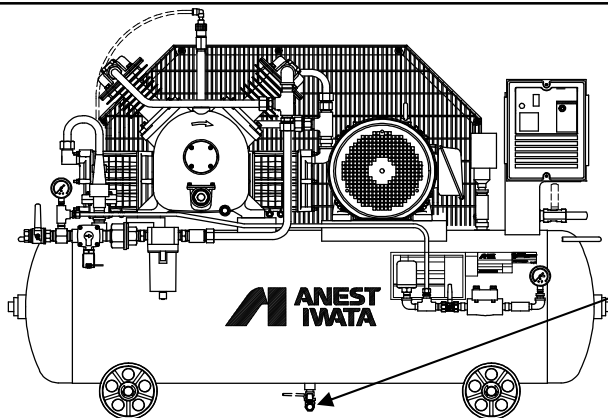
※ドレンバルブ(ボールバルブ)にホースを繋ぎドレンを空の缶等に排出してください。ドレンは油分を含んでおり、一般雨水と一緒に廃棄することは公害問題になるため、専門業者に処分を依頼してください。

日常運転の管理

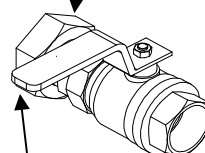
■ 運転開始

お願い

- 運転前に吸込み気体圧力と空気タンク内の圧力を確認してください。
吸込み気体圧力が0.5MPa～0.88MPaであることを確認してください。



ドレンバルブ



※開放する(ドレンバルブはゆっくりと開けてください)。

警告

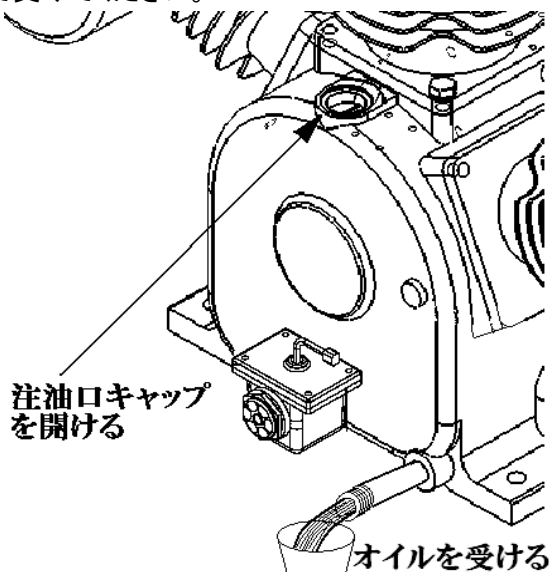
運転前に油量を確認し、不足の場合は給油してください。
※破損事故の原因となります。



油量の確認

運転前に油量を確認し、不足している場合は、給油を行ってください。
オイルレベルが、下限に近い状態のまま運転を続けると、オイルセンサーが働き、焼付事故防止のため、本機は自動停止します。

点検期間毎に(24ページ保守・点検一覧表参照)に潤滑油を全量交換してください。
※廃油作業は空気抜きのため給油口キャップを外したうえ、廃油口キャップを外し行ってください。
廃油はバケツ等で受けてください。

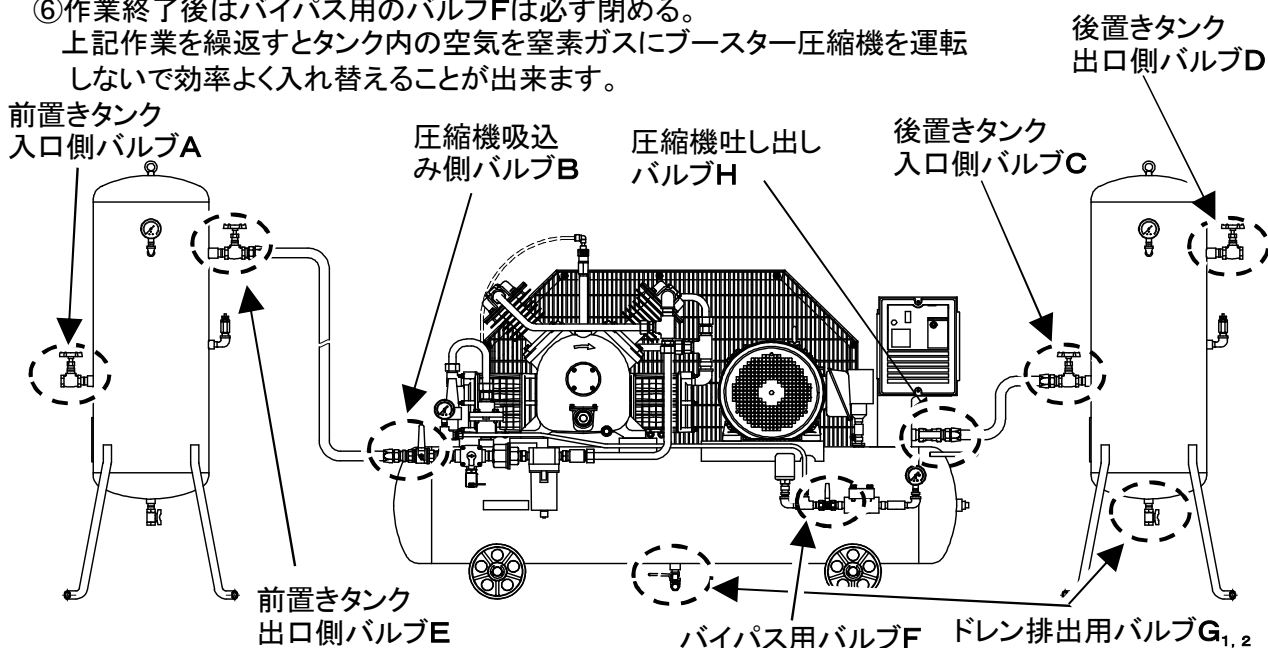


日常運転の管理

ワンポイント

●窒素ガスの昇圧に使用する場合、運転前に下記の手順でタンク・配管内の空気を窒素ガスに入れ替えてから運転を開始してください。ただし、この作業を行わなくても窒素ガスを使用していけば配管内は窒素ガスに入れ替わります。

- ①前置きタンクの入口側のバルブAと、後置きタンクの出口側のバルブDを閉める。
- ②前置きタンクと後置きタンク間のバルブB, C, E, Hを開ける(バイパス用バルブFも含む)。
ただし、ドレン排出用のバルブG_{1, 2}は開放しない。
- ③前置きタンクの入口側のバルブAを開け窒素ガスを充填する(圧力の上限は1.0MPaとする)。
- ④前置きタンクのバルブAを閉め、ドレン排出用のバルブ(圧縮機G₁又は後置きタンクG₂)を開け、充填した窒素ガスを放出する。
- ⑤ドレン排出用のバルブG_{1, 2}を閉め、③の行程に戻り、同じ作業を数回繰り返す。
- ⑥作業終了後はバイパス用のバルブFは必ず閉める。
上記作業を繰り返すとタンク内の空気を窒素ガスにブースター圧縮機を運転しないで効率よく入れ替えることができます。



警告

上記の窒素ガス作業を行う場合は十分に換気を行い、室内の酸素濃度が下がらないようにしてください。
※酸欠空気を吸込み死亡する恐れがあります。



換気の実施

■運転中

注意

●運転状態の時は、操作部(運転スイッチ、ボールバルブ)以外の部分に手を触れないでください。

※圧力降下により急に回転することがあり、回転体でけがや高温部での火傷の危険があります。



接触禁止

運転中に異常音(カンカン音や通常と異なる音)や異常振動(目で見て明らかに多い、グラグラする揺れ)が発生した時は、直ちに本機の運転を停止し、原因を取り除いてから運転を再開してください。

お願い

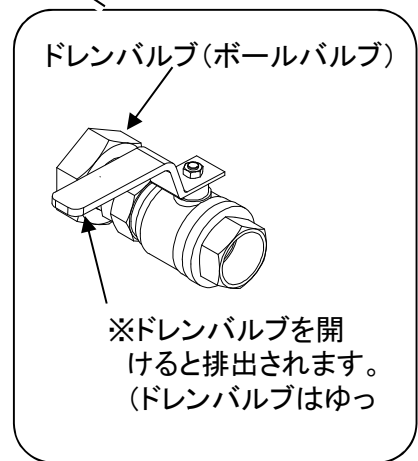
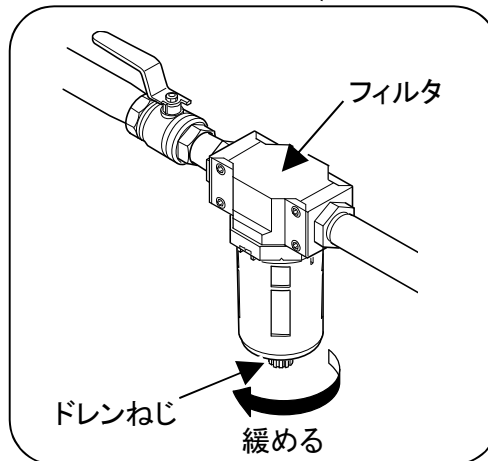
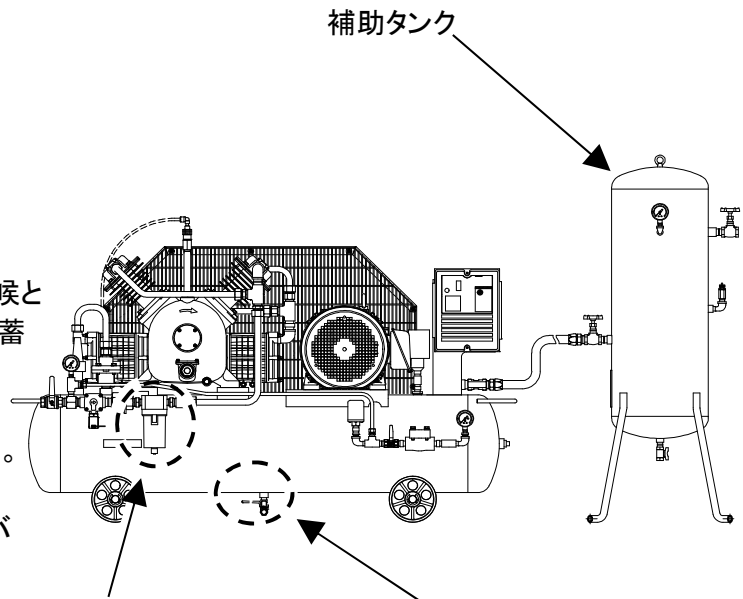
夏期においても運転中周囲温度40℃以上にならないよう、換気に注意してください。
※機械の故障や寿命低下の原因となります。

日常運転の管理

■運転終了

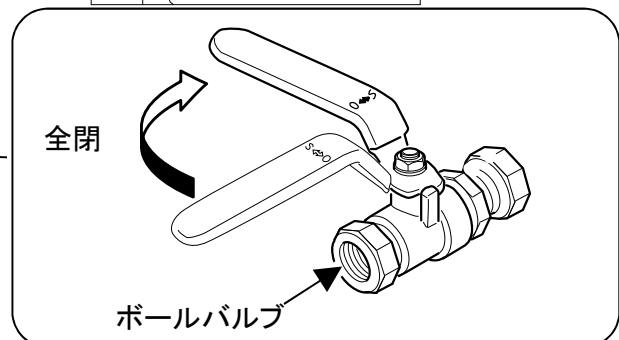
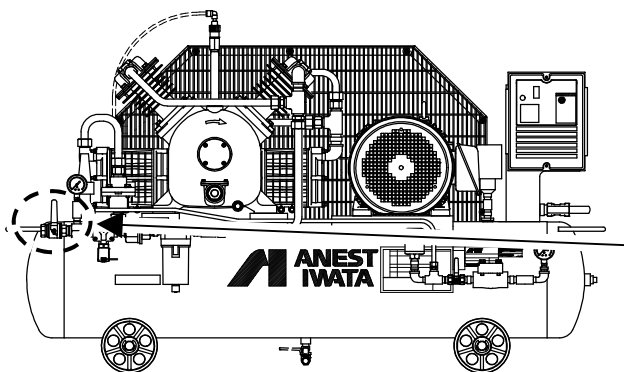
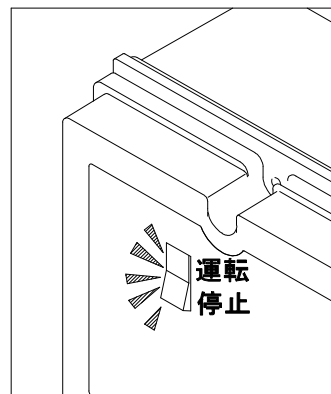
運転終了後、ドレンバルブ(ボールバルブ)を操作し、空気タンク内のドレンを排出して下さい。また、吸込み側のフィルタのドレンねじを緩めてフィルタ内のドレンも排出して下さい。

- 補助空気タンクを接続している場合や気候と運転状態により、空気タンク内にドレンが蓄積することがあります。
- タンク内に錆を発生させる原因となります。
- 冬季には、凍結してドレンパイプ、ドレンバルブ抜破損の原因となります。



作業終了後、運転スイッチを切り、吸込み側のボールバルブを閉じ、ドレンバルブ(ボールバルブ)を開けて空気タンク内の圧縮空気を完全に放出してください。

- 圧力があることを知らずにバルブを不用意開放し、事故が発生する場合があります。
- 圧力計の針上りの原因となります。



日常運転の管理

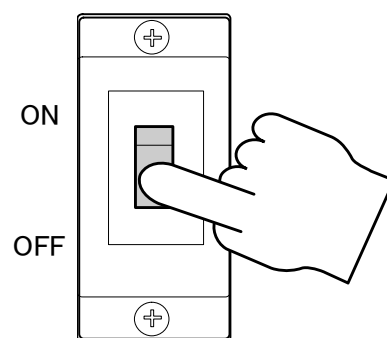
長時間運転しない場合は、下記内容にて処置ください。

【保管場所】

- 湿気や塵埃(鉄粉・木屑・砂塵・粉塵)の少ない場所。
- 腐食性ガス(アンモニア・酸・塩素ガス・塩分・亜硫酸ガスなど)が発生しない場所。

【ドレン処理】…下記処置を行ってください。

- 空気タンク内の圧縮空気が残っている間にドレンバルブを開けてドレンを完全に放出してください。
最後に止め弁も全開にして圧縮空気も完全に抜いてください。
- ※錆の発生・圧力によるシート部変形・摺動部の不具合発生を防ぐことができます。



元電源スイッチ

【元電源】必ず切ってください。

【定期運転】…1ヶ月ごとに下記要領にて運転してください。

- (1) 吸込み圧力と同圧力にて30分運転する。
- (2) 昇圧し制御圧力が正常に作動するか確認する。
- (3) 空気タンク内のドレンを完全に排出し、圧縮空気も完全に放出する。

【お願い】 6カ月以上運転を停止する場合

定期運転処理を行っても異常が発生する場合があります。安全にお使いいただくために、6カ月以上運転を停止させた後に運転を再開する場合はメンテナンスすることを推奨いたします。内容については、ご購入頂いた販売店又はアネスト岩田コンプレッサ株までお問い合わせください。

保守点検

次の点検項目を定期的を実施してください。

点検は、下記期間を基準に実施してください。表に掲げた点検期間は、標準的な使用の場合を想定していますので、使用条件が過酷な場合は、点検期間を早めてください。

標準的な使用状況とは、周囲温度は40℃以下でかつ年間平均温度30℃以下、運転時間は1日8時間、年間2,500時間を基準にしています。その他は設置注意事項によります。

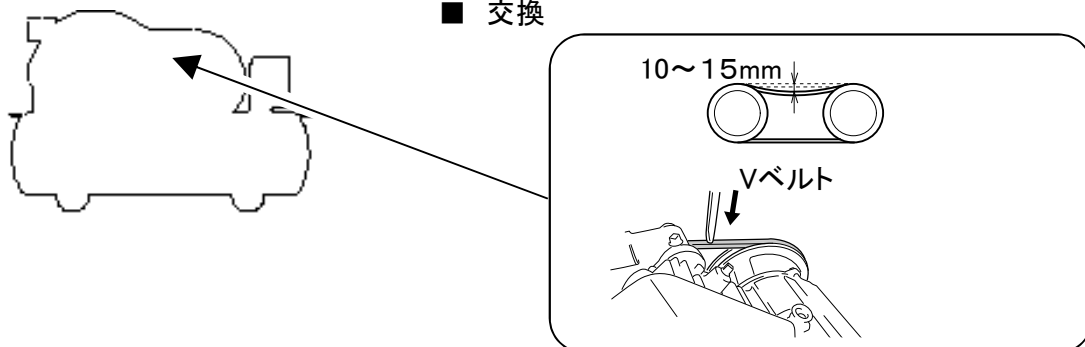
- ◆例えば、24時間連続運転で年間200日稼動する場合は点検期間は表の半分の期間になります。
- ◆点検基準期間は、保証期間とは異なります。
- ◆点検要領欄の ※マーク付は、お客様にて処理することが難しい内容です。お買い求めの販売店またはアネスト岩田コンプレッサ(株)にご連絡ください。

■保守・点検一覧表

点検項目	点検整備事項				点検要領
	24時間毎 (毎日)	200時間毎 (1ヶ月毎)	1200時間毎 (6ヶ月毎)	2500時間毎 (1年毎)	
潤滑油量の確認	●				16ページ参照
空気タンクの ドレン抜き	●				19ページ参照
異常振動・異常音	●				異常のある場合は、11、29ページを参照
制御機器の作動		●			異常のある場合は、29ページを参照
ボルト・ナット・ ネジ類の緩み		●			緩みのある場合は、適正な工具にて増し締めをする。
ベルトの張り 具合と傷み		●			ベルトの張り加減を確認。スパン中央部分を軽く押し10～15mmへこむ位にしてください。(下図) 緩みのある場合は、電動機をスライドさせて調整する。 ※ベルトの摩耗、傷みのある場合は交換する。
吸込み側フィルタ		●		■	内部フィルタを点検・交換する。
潤滑油の交換		■ (初回)	■		20ページ参照
圧縮空気の漏れ				●	最高圧力で30分間放置し圧力低下が最高圧の15%以内であるかを確認する。 ※降下が大きい場合は、点検・整備する。

● 点検または清掃。消耗部品で異常のある場合は交換する。

■ 交換



保守点検

	点検項目	点検期間				点検要領
		2500時間毎	5000時間毎	10000時間毎	20000時間毎	
		(1年毎)	(2年毎)	(4年毎)	(8年毎)	
電装品関連	電磁開閉器 圧力開閉器 (吸込用・タンク用)	●		■		接点の荒れの点検 ※異常があれば交換する。 ※電磁開閉器は4年毎に交換する。
	電磁弁	●	■			漏れ、動作を点検する。 ※異常があれば交換する。
	電動機		●		■	絶縁抵抗(リード線とアース間の抵抗1MΩ以上)の点検。電動機は8年毎に交換する。
配管部品関連・他	接続管	●				漏れ、割れを点検する。 ※異常があれば交換する。
	ボールバルブ	●				漏れを点検する。 ※異常があれば交換する。
	逆止弁(タンク入口用)	●				漏れを点検する。 ※異常があれば内部の部品を交換する。
	逆止弁(バイパス用)	●				漏れを点検する。 ※異常があれば交換する。
	樹脂チューブ	●		■		硬化、ひび割れなどを点検する。 ※4年毎に交換する。
本体部品関連	弁セット		●			※弁セットに付着したカーボンを除去または交換する
	弁パッキンセット		●	■		※劣化(弾力なし)や変形があれば交換する。 4年毎には、交換する。
	ピストンリング		●	■		※ピストンリングセットで交換 潤滑油の消費量が多い場合(1日12h以下の稼働で上限から下限まで0.5ヶ月以内)
	連接棒		●			※クランク軸セットでの交換 回転摺同部に異常あれば交換する。
	クランク軸		●			
	ベアリング		●			※クランク軸セットでの交換 回転状況点検、異常があれば交換する。
	オイルアラーム		●			清掃と作動確認 ※異常があればレベルスイッチを交換
冷却器セット	●		■		※パッキンの硬化、ひび割れがあれば交換する。	
タンク点検	空気タンク		●			胴、鏡板等のくされ、割れ、ふくれの有無を点検する。
	安全弁		●			動作と漏れの確認をする。
	圧力計		●			タンク内に圧力がないことを確認し、指針が0を表示しているか確認する。 ※0.1MPa以上針上がりある場合は交換。

●は、点検。消耗部品など不具合あった場合は交換する。

■は、必ず交換する。

注1. 事業者は、使用開始後1年以内毎に空気タンクの点検事項を自主点検し、その結果を最低3年間は記録保存してください。(記録用紙は、本取扱説明書の30ページに添付してあります。)

注2. その他の消耗部品についても、点検整備時に異常あれば新品と交換してください。
基本的には、4年毎に無条件に交換の実施をお願いいたします。

注3. 保守点検一覧表で※印のついた項目は、お客様において処理するのが困難な内容です。
お買い求めの販売店またはアネスト岩田コンプレッサ(株)の支店・営業所にご連絡ください。

保守点検

■機能点検

●圧力制御機器の設定圧力

制御圧力は18ページをご覧ください。

🗨️ お願い

安全弁は特に重要な安全装置ですから、調整が必要な場合はご購入頂いた販売店
又は最寄の当社支店・営業所にご連絡ください。

圧縮機セット・本体の分解・点検・組立上の注意

■分解上の注意

⚠️ 警告

①元電源を必ず切って作業をしてください。

※急に運転状態になり、けがをする場合があります。

②③空気タンク内の圧縮空気を完全に抜いてから作業をしてください。

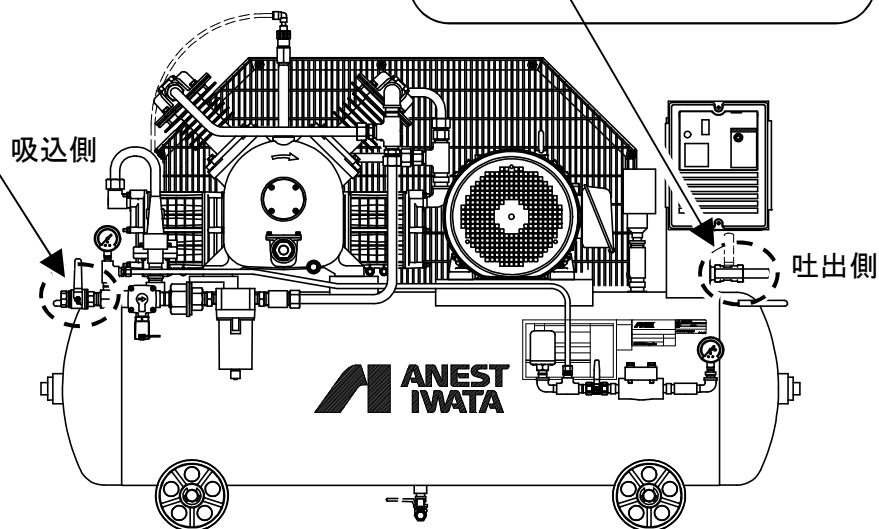
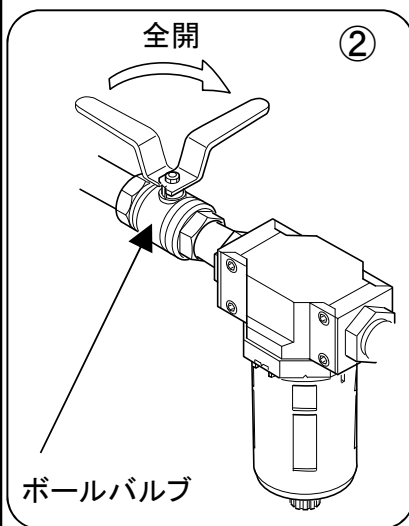
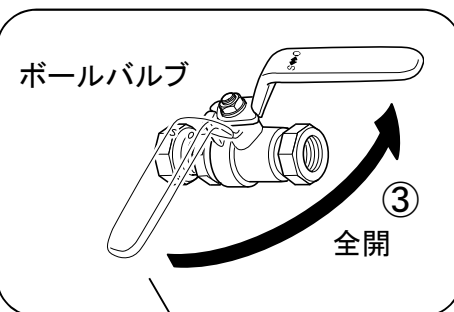
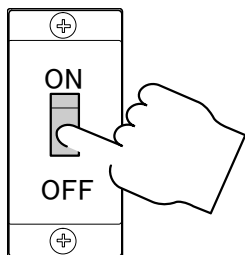
※分解時、部品が圧力により飛んでけがをすることがあります。



電源の遮断

圧縮空気を
放出する

①



●分解した部品は分解順序に従って、並べて置くと組立作業を間違えずに行うことができます。

●各部品の摺動面・パッキン面・はめあい部分を傷つけたり、変形させないように取扱いには十分気を付けてください。

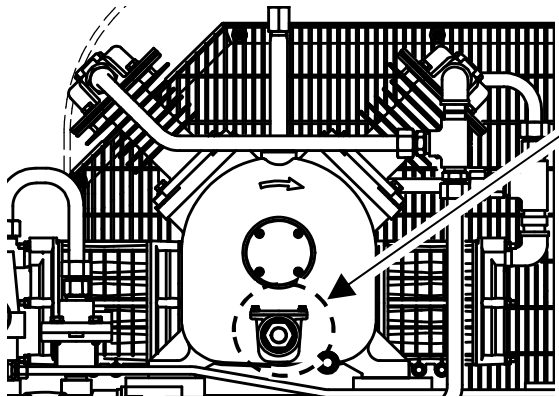
保守点検

■点検・清掃上の注意

各部品の清掃にシンナー等溶剤は使用しないで下さい

●オイルレベルスイッチの清掃

オイルレベルスイッチの清掃は、右図に従って心棒の周囲のごみ等を柔らかい布でふき取ってください。フロートは、絶対に心棒から外さないで下さい。



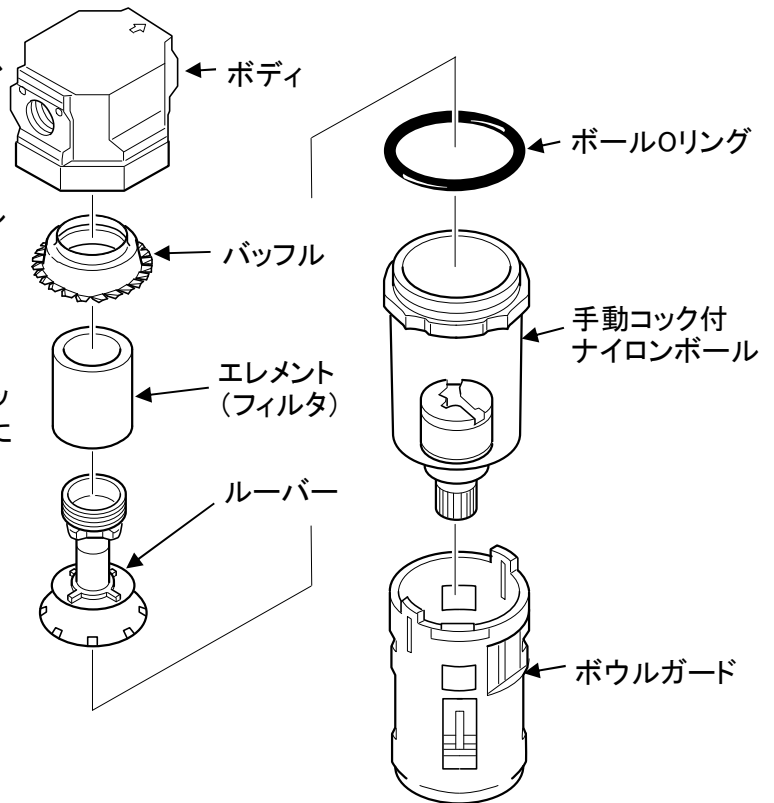
- ①上面の六角ボルトを外す
(4箇所)
- ②蓋はパッキンでシートされています。外れない時は軽く叩いて取ってください。
- ③フロートを上下させて心棒を布等で清掃する。
- ④清掃が終了したらアダプタ側・蓋側の両方のフランジ面の油分と異物を除去してください。パッキンは新品に交換して蓋を

●フィルタの点検

吸込側フィルタのエレメント交換

吸込側フィルタが目詰まりすると吐出量減少の原因となります。定期的エレメントの点検交換を行ってください。

- ①元電源を切り、吸込み気体側のボールバルブを閉じてください。
- ②フィルタ下部の手动コックを開いてフィルタ内の圧力を完全に抜いてください。
- ③ボールガードのラッチを指で押しながら45°回します。ボールガードを引き抜くと手动コック付ナイロンボールとボールガードが一緒に外れます。
- ④バッフルを取り外し、エレメントを交換してください。
- ⑤手动コック付ナイロンボールの中をエアブロー等で清掃してください。清掃の際有機溶剤は絶対に使用しないで下さい。
- ⑥組立は上記工程の逆の順序で行ってください。

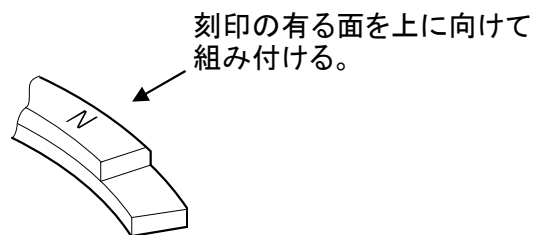


保守点検

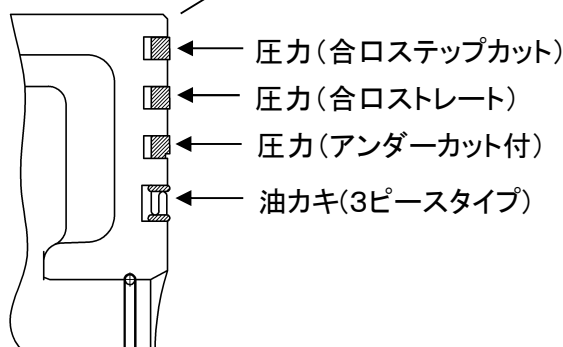
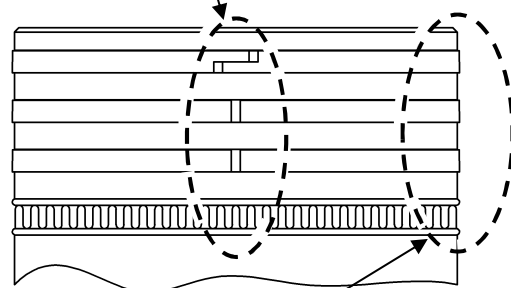
■組立上の注意

●ピストンリング

- ・ピストンリング(圧力)は、組み込みの順序と上下方向に注意して間違えないようにしてください。リング上面には刻印があります。
- ・油カキリングは、組み込みの上下方向はありません。使用済みリングを再使用する時には分解前と同じ組み込みになるように分解する時にマークするなど注意してください。
- ・ピストンをシリンダに組み込むときは、ピストン全体とシリンダ内壁に弊社純正専用オイルを十分に塗布してください。全気筒組み込んだ後、軸を手回してピストンを上下させて余分なオイルをふき取ってください。
- ・クランク室に組み付ける軸受け箱及びシリンダの取付面には、専用液状ガスケットを均一に塗ってください。取り付け後は、横に滑らせないように直ぐにボルトで固定してください。液状ガスケットは、3分程度で初期乾燥が始まります。塗った後放置せず直ぐに組み付けてください。
- ・本体の組立完成後、再び手でプーリーを回し軽く回転することを確認してください。運転前には、必ず弊社純正専用オイルを規定量(朱丸上まで)入れてください。



合口の形状に注意



■部品の購入について

部品をご購入の際は、本体の形式と付属の部品表を参照して、必要な部品名と部品番号をご指定の上、ご購入頂いた販売店又はまたはアネスト岩田コンプレッサ(株)にご連絡ください。

故障かな？と思ったら

- 万一異常が起こった場合には、まずお客様にて下表を参考に点検してください。
原因が特定できない場合、原因が特定できてもお客様では対応が難しい場合は
お手数ですがご購入頂いた販売店又はまたはアネスト岩田コンプレッサ㈱に
ご連絡ください。



症状	原因	対応方法
始動しない 又は始動しても 電動機がうる	元電源が入っていない	元電源を入れる
	タンクに圧があり圧力開閉器が作動している。	空気タンクの圧力を下げ、始動を確認する。 (作動圧力についてはP18を参照)
	運転スイッチがOFFになっている。	運転スイッチをONにする。
	元電源のヒューズが切れている。 または、ブレーカーダウンしている。	症状の『元電源のヒューズ切れ・ブレーカーダウンが発生する』の項を参考に、異常のないことを確認し、ヒューズの交換またはブレーカーを入れなおす。
	電磁開閉器のサーマルプロテクタが作動している。	サーマルプロテクタのリセットボタン(ブルーのボタン)を押して解除する。
	電源コードが切断している。	電源コードを交換する。
	電源コードが外れている。 結線場所が間違っている。	15ページを参照し配線を直す。(34ページの回路図通りの配線となっているか確認して直す)
	単相運転となっている。	電源コード・電動機コードを確認し、ネジの緩みや配線を直す、または交換する。
	電圧が低い。 (起動時の電圧降下が大きい)	15ページを参照し、電源コードの太さを確認し、規定より細かい場合は交換する。 電源電圧／電圧降下を測る。 電源の容量を確認する。容量が足りない場合は、電力会社に相談する。
サーマルプロテクタが 頻繁に作動する	圧縮機の周囲温度が高い。 (P12の「設置場所」を参照)	圧縮機が設置されている部屋を換気する。 サーマルプロテクタの設定値を5%だけ上げる。
	電圧が低い。 (起動時の電圧降下が大きい)	『始動しない』の『電圧が低い』の対応方法参照。
電源のヒューズ切れ・ブ レーカーダウンが発生 する	元電源のヒューズ・ブレーカーの容量が足りない。	15ページを参照し、十分な容量のヒューズ・ブレーカーに交換する。
	電源コードの破損等によるショートが発生した。	電源コードの状態と結線を確認する。 破損していれば交換する。
制御圧力上限に達する 前に停止する	圧力開閉器が狂っている。	お買い求めの販売店またはアネスト岩田コンプレッサ㈱の支店・営業所にご連絡ください。
	圧力計が故障している。	
安全弁が吹く	圧力開閉器が狂っている。	15ページを参照して、電動機コードを電磁開閉器の端子L1・L2・L3に接続する。
	安全弁が狂っている。	
圧力が上がらない または圧力上昇に時間 がかかる (充填時間を確認して 範囲外の場合)	ドレンバルブまたは使用しない止め弁の締めを忘れている。	締め直す。 締めても漏れる場合は、交換する。
	設備配管から漏れている。	漏れ部を修理する。
	各部の継手ねじ部から漏れている。	締め直す。
	吸込口フィルタが目詰まりしている。	フィルタの清掃又は交換する。
	ベルトがスリップしている。	ベルトの再張りをする。 ベルトの傷みが酷いときは交換する。
	安全弁から漏れている。 (安全弁のシート部分からの漏れ)	お買い求めの販売店またはアネスト岩田コンプレッサ㈱の支店・営業所にご連絡ください。
異常振動または 異常音をする	据付に不良がある。	取扱説明書の設置方法に従い水平に据付ける(車輪の下に敷物をする)。
	部品の取り付けにゆるみがある。	部品取付ねじの締め直しをする。
手動ドレンバルブから、 水も空気も出ない	ドレンバルブが詰まっている。	ドレンバルブを点検・清掃をする。
	タンク・ドレン配管の内部が凍結している。	暖めて解凍する。 設置環境を確認する。

- 注意① 電源回りの部品の点検・分解・交換をする場合は必ず元電源を切ってから行ってください。
- 注意② 配管・セット回りの部品の点検・分解・交換する場合はタンク内の圧縮ガスを全て抜き、元電源を切ってから行ってください。
- 注意③ 本体・電動機を手回して確認する場合はタンク内の圧力を抜き、元電源を切ってから行い、決してベルトを握らないように行ってください。
- 注意④ 電圧・電圧降下を測定する場合は感電しないよう十分注意し、事故の無いよう測定する。

空気タンク他点検記録

注) 記録用紙が満杯になった場合は、同内容の記録表を作成し引き続き記録してください。

1	点検年月日 年 月 日		点検者氏名		事業者印		
	点検項目及び点検事項		状態		異常		状態と措置
			良	否	有	無	
		1.胴・鏡板					
	本体の損傷	2.安全弁					
		3.圧力計					
固定部分							
管及び弁の損傷							

2	点検年月日 年 月 日		点検者氏名		事業者印		
	点検項目及び点検事項		状態		異常		状態と措置
			良	否	有	無	
		1.胴・鏡板					
	本体の損傷	2.安全弁					
		3.圧力計					
固定部分							
管及び弁の損傷							

3	点検年月日 年 月 日		点検者氏名		事業者印		
	点検項目及び点検事項		状態		異常		状態と措置
			良	否	有	無	
		1.胴・鏡板					
	本体の損傷	2.安全弁					
		3.圧力計					
固定部分							
管及び弁の損傷							

4	点検年月日 年 月 日		点検者氏名		事業者印		
	点検項目及び点検事項		状態		異常		状態と措置
			良	否	有	無	
		1.胴・鏡板					
	本体の損傷	2.安全弁					
		3.圧力計					
固定部分							
管及び弁の損傷							

法律による届出

圧縮機の設置、使用に際しては、安全及び公害対策上、法規の適用を受けます。

■労働安全衛生法に基くもの

●圧力容器安全規制

定期自主検査

・使用者は毎年1回以上次の事項について定期自主検査を行い、その結果を記録し、3年間保管しておくこと。

- ①本体の損傷の有無
- ②蓋の締め付けボルトの摩耗の有無
- ③管および弁(ボールバルブ、安全弁)の損傷の有無

空気タンクの第2種圧力容器明細書は再発行できませんので大切に保管してください。

■騒音規制及び振動規制法に基くもの

●騒音規制法および振動規制法により設置届

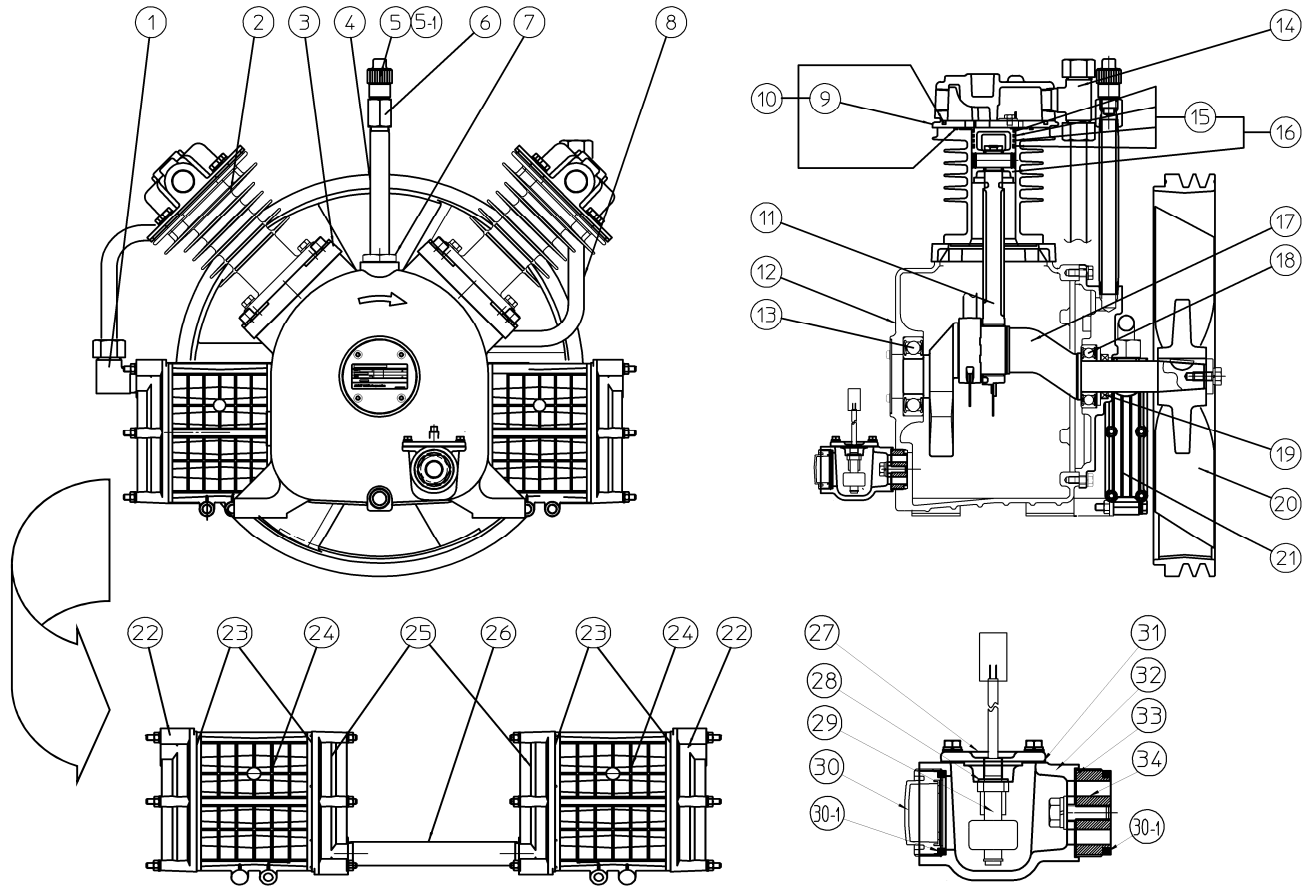
(1) 圧縮機で駆動定格出力7.5kW以上のものは、条例によって定められた指定地域にあつては特定施設として届出が必要です。

なお各都道府県により基準が異なりますので工場、事業所の所在地の区、市役所および町村役場の公害相談窓口で確認してください。

届け出	・新設届。(新しく設置する場合) ・数などの変更届。(圧縮機の台数および種類を変更する場合) ・騒音防止方法変更届。(発生騒音の防止方法を変更する場合)
届出期日	・設置(変更)の工事開始の30日前に届出る。
届出場所	・工事、事業所の所在する区、市役所および町村役場の公害担当窓口。

組立図/部品表

●圧縮機本体



●部品表

(5.5/7.5kW本体兼用)

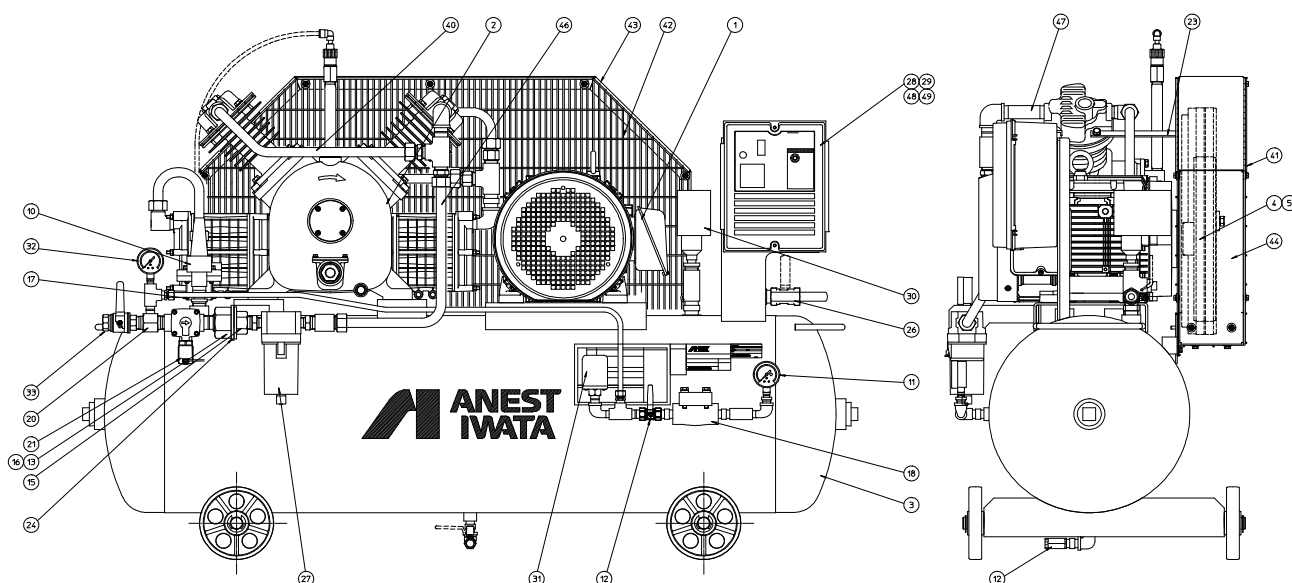
番号	部品名称	数量	番号	部品名称	数量
1	高圧用エルボユニオン	1	18	ラジアル玉軸受け	1
2	シリンダ	2	19	オイルシール	1
3	ケースライナー	2	20	フライホイールプーリセット	1
4	ロングニップル	1	21	冷却器セット	2
5	ブリーザー	1	22	冷却器フランジ	2
※5-1	注油口蓋パッキン	1	※23	アフタークーラーパッキン	4
6	ブリーザーアダプタ	1	24	冷却器本体	2
7	オイルキャップセット	1	25	アフタークーラーフランジ	2
8	冷却管	1	26	ニップル	1
9	弁セット	2	27	アラーム蓋	1
10	パッキン付弁セット	2	※28	Oリング	1
11	接続棒セット	2	29	レベルスイッチ	1
12	クランク室	1	30	油量計セット	1
13	ラジアル玉軸受け	1	※30-1	油量計パッキン	2
14	高圧用チーズユニオン	1	※31	パッキン	1
※15	ピストンリングセット	2	32	アラーム本体	1
16	ピストンセット	2	※33	アダプタパッキン	1
17	クランク軸	1	34	アダプタ	1

※印付き部品は消耗品です。

組立図/部品表

●仕様

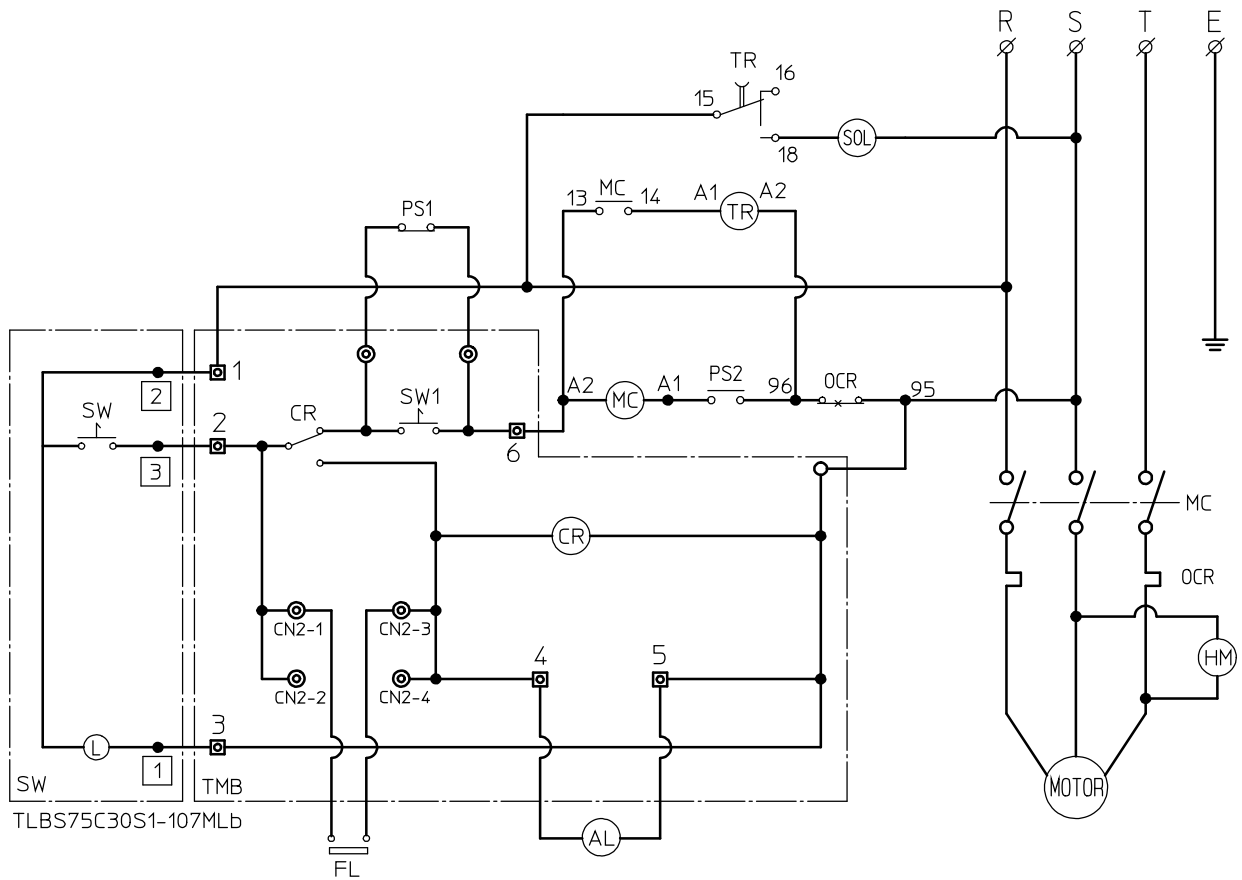
形式	TLBS55C30-S2 / TLBS75C30-S2		
圧縮機本体	BRL75C30-S1	空気タンク容量 L	160
運転制御方式	圧力開閉器	空気出口管径	Rc3/4
出力 kW	5.5 / 7.5	外形寸法 mm 全幅×奥行×全高	1570×620×1100
回転速度 min ⁻¹	750 / 990	質量 kg	400 / 411
制御圧力 MPa	2.65~3.0		
吸込み圧力 MPa	0.5~0.88		



番号	部品名称	個数	番号	部品名称	個数
1	電動機	1	24	パネルユニオンステー	1
2	ブースタ圧縮機本体	1	26	ボールバルブ(吐出)	1
3	空気タンクセット	1	27	フィルタ	1
4	電動機プーリ 50Hz	1	28	電装箱	1
4	電動機プーリ 60Hz	1	29	電装箱蓋	1
※5	Vベルト 50Hz	2	30	圧力開閉器(タンク圧)	1
※5	Vベルト 60Hz	2	31	圧力開閉器(吸込圧)	1
10	安全弁	1	32	圧力計(吸込圧)	1
11	圧力計(タンク圧)	1	33	ボールバルブ(吸込)	1
12	ボールバルブ(バイパス)	1	40	接続管セット	1
13	六角ナット(細目)	1	41	ベルトガード1	1
15	パネルユニオン	1	42	ベルトガード2	1
16	平座金	1	43	天井板セット	1
17	逆止弁(タンク)	1	44	天井板左右セット	1
18	逆止弁(バイパス)	1	46	吸気管セット	1
20	特殊角ニップル	1	47	ロングニップル	1
21	電磁弁	1	48	電磁開閉器	1
23	ベルトガード保持ステー	1	49	タイマー	1

注: ※印付き部品は消耗品です。

電気回路図



MOTOR	電動機
MC	電磁開閉器
OCR	サーマルリレー
PS1	圧力開閉器 (タンク圧)
PS2	圧力開閉器 (吸込圧)
SW	運転スイッチ
FL	オイルアラーム
AL	表示灯
HM	時間計
SOL	電磁弁 (吸込)
TR	タイマ (吸込電磁弁)
TR	ランプ (運転スイッチ内蔵)

保証と修理サービス

保証について

保証書 (保証規定)

お買い上げの商品を本取扱説明書にしたがって正常のご使用で万一故障が起きましたときは、本保証書の記載内容により無償修理いたします。

形式	TLBS	品名	圧縮機
お客様	御社名		
	お名前		
	〒□□□□-□□□□ ご住所		
	TEL () -		FAX () -
保証期間	お買いあげ日 年 月 日から 「1年間」または「運転時間2500時間」 のいずれか先に到着した期間を「保障期間」とします。		
販売店	販売店名		
	〒□□□□-□□□□ ご住所		
	TEL () -		FAX () -

◇無償修理を受けるための条件および手続きと保証範囲

- (1) 本保証書をご提示のうえお買い上げの販売店又はアネスト岩田コンプレッサ㈱にご依頼ください。
 - (2) 本保証書に記入した内容(お買い上げ日、販売店)を確認できる納品書等を提示願います。
 - (3) 本保証書は日本国内においてのみ有効です。This warranty is valid only in japan.
 - (4) 本製品の故障または不具合に伴う生産補償、営業補償などの二次補償に対する保証は致しません。
- ◇次の場合は保証期間内でもお客様のご負担(有償)になります。

- (1) 本保証書のご提示が無い場合
- (2) 本保証書にお名前、お買い上げ日、販売店名の記載が無い場合あるいは字句等を書換えられている場合
- (3) 取扱上の不注意・取扱説明書の記載事項を守られなかったことによる故障および損傷
- (4) 消耗品の交換・修理
- (5) 指定外の動力源(電圧、周波数、燃料他)又は天災・地変(火災、地震、水害、塩害、落雷、公害など)による故障および損傷
- (6) 純正部品以外の部品が使用されている場合
- (7) 製品を無断で改造している場合
- (8) 当社指定の修理店以外による修理がなされている場合

◇法的責任

本保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。

従って、本保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理等またはご不明な点はお買い上げの販売店または当社支店・営業所までお問い合わせください。

◇保証書の保管

●「保証書」は、内容をよくお読みになったうえで、「お客様のお名前・ご住所」、「お買いあげ日」、「販売店」など必要事項については、誠に恐縮ですがお客様にご記入していただき、納品書と共に大切に保管して下さるようお願いいたします。

●本保証書は紛失されても再発行しませんので、大切に保管してください。

修理を依頼されるときは

●修理はお買い上げの販売店又はアネスト岩田コンプレッサ㈱にご相談ください。

修理サービスについて

このときお買い上げの商品の形式名およびお買い上げの時期をお知らせください。

●保証期間経過後の修理は、修理により機能が維持できる場合、お客様のご要望により有料にて修理いたします。

●詳しくはお買い上げの販売店にご相談ください。

また、その他ご不明な点はお近くのアネスト岩田コンプレッサ㈱へお気軽にお問い合わせください。

最新のお問い合わせ先につきましては当社ホームページ<http://www.anest-iwata.co.jp>をご覧ください。

お問い合わせに対する連絡先について

◆製品に関するお問い合わせ、ご意見・ご希望などございましたら、下記までご連絡ください。

営業時間 月～金 9:00～17:00 但し、祝祭日、夏季休暇、年末年始は除きます

アネスト岩田株式会社

TLBS75C30S2-99